

○巖手縣の地勢を問ふ

○盛岡市の概況を問ふ

○巖手縣の良港を記せ

○巖手縣の特産物を問ふ

◎青森縣

青森縣廳 是青森市に在りて、陸奥の九郡を管轄す。

青森縣の地勢 本縣は本道の北部本州の北端にして、東西北の三面は海に臨み、南は巖手及び秋田の二縣に接す、斗南半島は北に斗出して、其北端更に廣がりて西方に突出す、恐山は其北端に峙つて、常に火煙を吐く。斗南半島と相並んで西に斗出するは、津輕半島にして、其内を青森灣と云ふ。

青森縣の鐵道 是巖手縣より來りて、野邊地を過ぎ、青森灣に沿ふて西に走り、青森市に至つて止む。

青森縣廳  
對岸函館  
港上ノ間  
津輕海上  
津輕海峡

青森市ハ  
日本鐵道  
ノ終點ナ

青森市ノ  
附近ヨリ  
ハ美味ナ  
ハ唐林檎  
ナル多ク  
シテ各地  
ヘ出ス

弘前地方  
ニテ産ス  
ル漆器ニ  
ハ漆器ニ  
シテ外觀  
甚ダ美麗  
ニシテ且  
シテ久シ  
クニシテ  
ニ至ルニ  
至ルニシ  
テ至ルニ  
至ルニシ  
テ至ルニ  
至ルニシ

官設鐵道は青森市に起つて、西南に走り、弘前市を経て南に走り秋田縣に入る。

青森市は本州島の北端にて、青森灣に臨み、青森縣廳の所在地なり、海上三十里を隔てたる對岸は、北海道の函館港にて、常に函館と汽船の往復あり、水陸の便殊に宜しきを以て、市内は日に繁華に赴き商業も年と共に益盛なり。

弘前市は青森市の西南に在る、本縣第一の都會にして、人口三万六千餘あり、舊津輕氏の城地にして、城内に第八師團司令部あり、岩木川、市の北方を流れて周圍の平野に灌漑す、津輕富士の名ある岩木山は、西部海岸地方に屹立して、岩木川其北麓を流れて十三瀉に入る。

青森縣の物産 其重なる物は、米穀、硫黃、津輕塗、林檎等なり。

◎練習問題

○青森縣の地勢を問ふ

○青森灣の狀況を記せ

○東山道

○青森市及び弘前市の状況を問ふ  
○青森縣の物産如何

◎秋田縣

男鹿半島  
沿海ヨリ  
ノ海産物  
等ハ銚子  
等ノ水産  
物ヲ出ス

秋田縣廳 は秋田市に在りて、羽後の八郡と陸中の一郡を管轄す。  
秋田縣の地勢 本縣は本道の西北隅に位し、東部は陸奥山脈相重りて、其中央より西に支脈を出して、本縣を南北に二分す、故に本縣の平地は南北にありて、西に廣がる、其北部平地には、能代川流れ、南部平地には御物川流れて、共に平野を養ふ、故に米穀、果實の發生殊に宜し、西部一帯の地は日本海に面して、南方に男鹿半島、洋中に斗出し、八郎瀨を構成す、本縣の平野よりも林檎を出す、  
秋田縣の鐵道 は北青森縣より來りて、大館にて西に曲り、能代に至つて更に南に曲り、八郎瀨に沿ふて土崎に出で、海岸に沿ふて秋田市に達して止む。

秋田市ハ  
佐竹氏ノ  
城地ナリ

秋田縣ハ  
其大ナル  
チ以テ名  
高シ

能代塗ニ  
ハ漆器ニ  
シテ名高  
シテ類々  
盛ニ類々  
ル高尙ナ  
ルモノ

秋田織  
コトナ  
ニ秋田  
織ト稱ス  
ルナリ

秋田市は羽後中央の西部海岸に近き處にありて、人口三萬を算し、秋田縣廳の所在地にして、二里の北には土崎港あり、即ち御物川の河口なり、市は土崎港と連絡を通するを以て商業盛んに、市内亦た極めて繁華なり、歩兵第十七聯隊の兵營あり。  
土崎港は開港場にして、横濱と定期汽船の往復あり、本港よりは縣下の物産たる米及び銅を輸出す。

能代港は土崎港の北方に在りて、能代川の河口なり、本港も亦た船舶の出入多く商業盛なり、本港よりは能代塗の漆器を出す、又此附近の山岳よりは金、銅、硫黃、銀等を出す。

本縣第一の銀山は院内にして、秋田市の東南方山形縣の國境に在り。  
秋田縣の物産 其重なる物は、米穀、金、銀、硫黃、銅にして此に亞ぐ物は、秋田織、秋田蓆、能代漆器なりとす、又た沿海よりは鱈鮭等の海産物を出す。

◎練習問題

○東山道

- 秋田縣の地勢を問ふ
- 秋田市の状況を示せ
- 秋田縣の良港を問ふ
- 秋田縣の物産を問ふ

### ◎山形縣

湯殿山ノ  
頂ヨリハ  
白煙ヲ吐  
ク  
轉々迂回  
トハ山ト  
山ノ間ヲ  
グルム  
ト回リ流  
レトコト  
ナリ

山形縣廳は山形市に在りて、羽前の九郡と羽後の一郡とを管轄す。  
山形縣の地勢、北は秋田縣に連り、東は大山脈を以て宮城縣と境す、西部は日本海に面す、火山脈は本縣の中央に於て廣がり、中に有名なる羽黒、月山、湯殿の三山を起す、最上川本縣の山間を轉々迂回して西に流れ、日本海に入る、其河口は即ち酒田港なり、故に本縣は平地に乏しく、唯だ東北部に於て平地を見るのみ、米澤平原の稱あり。  
山形縣の鐵道 は福嶋縣の福嶋町より本縣に入り、米澤市を過ぎて山形市に來

山形市ハ  
最上川ノ  
谷城地ニ  
シテ最上  
ト稱セシ  
所ナリ

米澤市ハ  
上杉氏ノ  
舊城地ナ  
リ  
米澤織ハ  
糸織ニテ  
優美高尙  
トス

り、其より最上川の沿岸平野の間を北に走つて大石田に至る。

山形市は本縣の中央最上川の沿岸平地にある都會にして、人口三万五千を算し、山形縣廳、歩兵第三十二聯隊の所在地なり、市内商業盛んにして、土地山間に在るにも拘はらず頗る繁華なり。

山形市の西北海岸秋田縣の境に在る良港は酒田港なり、最上川は酒田港に來つて海に入る、港内水深くして船舶の出入多く、大阪神戸横濱等より汽船の定期往復ありて、市街は大に繁華なり。

酒田港の南方に在る名邑は、鶴岡にして、土地山形市と酒田港の間に在るを以て、商業又た盛んに、一小都會を爲す、此の附近の土地を総稱して庄内と云ふ。

米澤市は有名なる米澤織の産出地にして、山形市の南に在り、本縣第一の商業地とす、人口三萬余を有して、市内よりは養蠶及び絹織物を産出す、米澤織の名世に高し、又た此の附近より盛んに薄荷を出す。

山形縣の物産 其重なる物は繭、生絲、米澤糸織、薄荷等なり。

#### ○東山道

米澤市出  
ノ海下ハ  
天下一品  
ト稱ス

### ◎練習問題

- 山形縣の地勢を問ふ
- 山形縣の三大山は如何
- 山形市の概況を問ふ
- 米澤市の狀況を示せ
- 山形縣下の良港を問ふ

## 第四章 北陸道

### ◎北陸道の位置及び分割

北陸道は本洲島の中央の北方に、東北より西南に日本海に沿ひつゝ細く長く延びたる地にして、若狭、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡の七ヶ國より、成り、此に福井、石川、富山、新潟の四縣を置きて分轄さる。

斷崖絶壁  
トハ海岸  
ガ切リタ  
テエ成ツ  
ナルコト

### ◎北陸道の海岸

日本海に面する一帯の海岸は、能登半嶋海洋中に長く突出するの外、概ね一直線を爲す、若狭の海岸には屈折多くして、若狭灣内に小濱灣あり、越前の海岸に敦賀灣あり、越中に富山灣あり、富山灣より東北一帯の海岸は屈折更に無く斷崖絶壁にして、有名なる親不知の險地あり

### ◎北陸道の地勢

本道の南部は飛驒山脈、白山山脈あり、北部には羽越山脈、彌彦山脈、木曾山脈等相連りて、東山道と境し、河流は信濃川、阿賀川、神通川、射水川等東山道より來りて北流し日本海に注ぐ。

### ◎北陸道の氣候

#### ○北陸道

親不知ト  
ハ海岸ノ  
ハ海路ニシ  
テ渡リシ  
テ來リシ  
ト云フ  
ト云フ  
ト云フ  
ト云フ

北陸道は一般に寒さ甚しく、冬季はシベリヤ大陸の西北風日本海の水蒸氣を含みて來り、其風山岳に當りて更に冷却され、即ち雪と成つて盛んに降る、此に於てか雪の國の名あり。

本道は越後に平野あり、越中、加賀、越前にも亦た平野ありて、信濃、阿賀、神通等の河流の灌漑を受けて、地味大に肥ゆるを以て、米穀を第一とし、桑麻、生絲、紡績等此に次ぐ生産物あり、又た各處の山岳より金、銀、木材、石炭、石油等を盛んに産出す。

### ◎福井縣

福井縣廳 是越前の福井市に在りて、若狹越前の二國を管轄す。

福井縣の地勢 東南方は一帯に山岳相連りて高地を爲すと雖ども、西北方は平地にして日本海及び若狹灣に臨み、日野川平野に灌漑して地味を肥す。

福井縣の鐵道 東海道線滋賀縣の米原に於て岐れ、近江の國境に聳ゆる膳吹山

本縣ノ東ノ國境ニ  
南方近江  
ノ國境ニ  
木芽嶺  
リ昔此ノ  
嶺ニ關所  
アリテ北  
陸道ノ關  
門ヲナセ

脈の木芽嶺の隧道、即ち柳ヶ瀬隧道を過ぎて敦賀に至り、福井市を経て石川縣に入る。

敦賀港は本縣の中部日本海岸に在る良港にして、北陸道第一の開港場なり、市内には歩兵第十八旅團司令部を置かる、金崎の宮は敦賀町に在り。

福井市は本縣の北部の平野にある都會にして、福井縣廳の所在地なり、人口四万五千を算し、市中は概ね機業家にして奉書紬及び羽二重を産出して、外國に輸出す、市中の中央を東西に流るゝ川は足羽川なり。

福井市の附近に大野、勝山等の名邑あり、共に羽二重、奉書紬、紙等の産出地なるを以て、土地大に富めり。

鯖江町は亦た名邑にして、歩兵第三十六聯隊の兵營あり、小濱町は若狹灣の東岸に在る港にして、海産物に富み、又た若狹塗の名産ありて、若狹第一の都會なり、

福井縣の物産 其重なる物は羽二重、奉書紬、奉書紙、鐵器、漆器、鳥ノ子紙

### ○北陸道

福井市ハ  
舊柴田藩  
家ノ居城  
ナリシガ  
秀吉ノ爲  
メニ七ツ  
平氏ノ後  
城トナリ  
シトナリ  
松平春嶽  
公其名高

福井市ヨ  
リハ鳥ノ  
子紙ヲ出

蚊帳等なり海産物は若狹鱈、若狹鯨、雲丹等其重なるものとす。

◎練習問題

- 北陸道の區劃及び位置を問ふ
- 北陸道全般の地勢及び氣候を問ふ
- 北陸道の海岸の状態を示せ
- 福井市の状況を問ふ
- 福井縣下二開港場の状態を示せ
- 福井市附近の名邑を記せ
- 北陸道に雪を多く降す理由如何
- 福井縣の物産を問ふ

◎石川縣

石川縣廳 は加賀の金澤市に在りて、加賀能登の二國を管轄す。

東南山脈  
ノ中ニ高  
ク峙ツハ  
即チ白山  
ナリ

石川縣の地勢 東南は山岳相連るを以て、土地極めて高く且つ峻しと雖ども、北方海岸に向ふに従つて平坦にして平野多し、能登半島の東部海岸に在る大灣は即ち七尾灣なり

金澤市ハ  
舊前田侯  
ノ居城ナ  
リ

石川縣の鐵道 官設北陸鐵道は福井縣より來つて、大聖寺小松を過ぎ、金澤市を経て富山縣に入る、又た津幡より岐れたるは七尾鐵道にして七尾に至つて止む。

兼六公園  
ハ前田家  
ノ建造ニ  
係ルモノ  
ナリ

金澤市は本縣中部の北方に在りて、石川縣廳の所在地なり、第九師團司令部、第四高等學校、地方裁判所等あり、人口九万五千を算して北陸道第一の大都會なり、市中は商業盛にして大賈巨商を並べて繁昌を極む、市街の高地に在る公園は即ち日本三公園の一なる、兼六公園にして、園内山水の風景別けて絶佳なり。

金澤市の南部に小松、大聖寺の名邑あり、彼の有名なる加賀絹、九谷燒等の産

○北陸道

金澤市ヨ  
リ象眼細  
工物山ヲ

地なり。

金澤市の北に在る港は、金石港にして貨物の集散少なからず。

大聖寺ノ  
附近ニ山  
中ノ温泉  
アリ

津幡は北陸鐵道と七尾鐵道との分岐點たる名邑にして、七尾町は七尾灣の南岸にある開港場にして、能登第一の都會なり、港内水深くして、巨船の出入碇泊に適す。

和倉温泉は七尾町の附近の高地に在りて、其名高し石川縣の物産其重なる物は九谷焼、加賀絹、銅器、陶器、象眼、細工、輪嶋塗等にして、海産物にも富み、雲丹も又た名産なり。

### ◎練習問題

- 石川縣の地勢を問ふ
- 金澤市の状況を問ふ
- 石川縣下の有名なる温泉を示せ

○石川縣下の名邑を問ふ

○石川縣の物産を示せ

### ◎富山縣

富山縣廳 は越中の富山市に在りて、越中一ヶ國を管轄す。

富山縣の地勢 東西南の三面は山岳を以て圍まれ、北方は日本海に面す、其東南隅に聳ゆるは立山にして、西南の國境加賀の境に在るは、俱利迦羅峠及び礪波山にして、共に古戰場なり、北部は一帶に平地にして神通射水の二大川、本縣平地の東部及び西部を流れて、一帶の平野に灌漑す。

富山縣の鐵道 は北陸鐵道加賀の津幡より來りて、俱利迦羅峠の麓を迂回し、高岡市に來つて南北に支線を出し、其南せるものは城ヶ端に達し、其北せるものは富山灣の海岸なる伏木港に至る、而して本線は斜に東に進んで富山市に止む。

俱利迦羅  
峠ハ平野  
盛ト木曾  
發仲ノ激  
ニシテ大  
家ノ大軍  
木曾源氏  
ラレタル  
處ナリ

迂回  
ニテハ  
コト

しよ  
ノド  
クビトイ  
フ井ミニ  
ア大切ナ  
トコロノ  
コト

富山市は本縣平野の中央に在りて、神通川市中を貫通して北流す、富山縣廳の所在地にして、人口六萬を算し、實に北陸街道の衝に當り、西は金澤市に通し、東北は越後の新潟と連る、市内は商業盛にして、米穀の産出多く、繁昌を極め、北陸道の商業地と云ふ、又た市中に賣藥商多し。  
富山市の西方に在る一都會は、高岡市にして市内は商工業盛んに、銅器及び漆器の生産地として其名高し。  
伏木港は射水川の海に注ぐ處に在る良港にして、富山灣内の開港場なり、船舶の出入常に絶へず、大阪及び神戸よりは汽船の定期航海あり。

◎練習問題

- 富山縣の地勢を問ふ
- 富山縣の二大都會并に其都會の物産を問ふ
- 富山縣下の二大川とは如何

○富山縣の重なる物産を示せ

◎新潟縣

新潟縣廳は 越後國新潟市に在りて、越後一ヶ國と佐渡嶋とを管轄す。  
新潟縣の地勢 越後は北陸第一の大國にして、西北一帯の地は日本海に面し、其海岸の長さ七十里を數ふ、東南は山岳互ひに連りて高地を爲す、其山脉より東及び西に各一條の支脈を北方に出して、越後全國を三分す、其東方支脈より北を下越後と稱し、西方支脈より南を上越後と云ひ、東西支脈の中間を中越後と呼ぶ。

本縣の西北方は一帯に廣大なる平野にして、信濃川及び阿賀川此の平野に灌漑して、地味甚だ肥ゆるを以て、米穀の産出夥しく、且つ米質善良にして、夙に越後米の名高し。

新潟縣の鐵道 は信濃の長野より北に進みて本縣に入り、高田を過ぎて直江津

○北陸道





○佐渡島の概況を問ふ  
○新潟縣の物産を示せ

### 第五章 山陰道

#### ◎位置及び區劃

山陰道は本洲島の西部に位し、北は一帶に日本海に臨み、南一連は中國山脈を以て、山陽道と區劃さる、東部は畿内及び北陸道に接し、西部は山陽道の長門に連る、本道を丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見及び隱岐嶋の八國に分たれ、鳥取、嶋根の二縣を以て之を分轄す、但し行政上の便宜に依り、丹波、丹後、但馬の三國は、京都府及び兵庫縣の分轄に屬す。

#### ◎地勢

本道の山陽道に接する部は、即ち中國山脈にして、山多く地高くして平地少な

名和長年  
後醍醐天皇  
船上山  
二條ノ軍ニ  
營ル

く、其大なる山岳は伯耆の大山、出雲の三瓶山、さては三つの三國山等にして其他山岳の名あるものは、大江山、由良ヶ嶽、船上山等なり、船上山は建武の中興に際し、名和長年勤王の旗を擧げたる地にて、其名高し、北方日本海に面する地方は、一般に平地を爲すも、地味は概ね瘠地にして、伯耆出雲の一部を除くの外は、沃野なく従つて農産の業に適する地少し。河流は其源を南部の中國山脈に發して北流し、日本海に入る、其中の大なるものは、石見の江の川にして長さ凡そ五十里あり、此に亞ぐは宍道湖に入る斐伊川及び伯耆の日野川なりとす。本道の海岸屈折少なく、殆んど一直線を爲す、故に港灣の著しきものなきも、其中にて良港と呼ばれたるは、石見の濱田伯耆の境なりとす。

#### ◎氣候

本道の氣候は、一般に寒く山陽道の降雪を見ざるに反して、本道は降雪多く、

○山陰道

南部の高地には丈余の積雪を見ることが敢て珍しからず。

本道は農産の業に適する地少なし、故に米穀の産出は著しからねど、牧畜の業は古來より盛んに行はれ、従つて名牛駿馬を産し、又た紙、蠟、漆、銀、鐵等の礦物を出す。

### ◎鳥取縣

鳥取縣廳 は因幡の鳥取市に在りて、因幡伯耆の二國を管轄す。

鳥取縣の地勢 南は中國山脉にして、其山脉の支脈北方に延びて、平地少なし、北は日本海にして、西部出雲の界に一灣あり、即ち中の海なり、中の海は夜見ヶ濱に依て外海と分たる。

鳥取縣の鐵道 は官設鐵道境港より起つて米子御來屋等を経て八橋に至て止む此間僅かに四十哩に過ぎず故に凡ての交通は國道に依らざるべからず

鳥取市は因幡の北部千代川の東岸に位して、鳥取縣廳及び歩兵第四十聯隊の兵

米子ノ附 近ニ御來 屋小ナリ 港小ナリ 後醍醐天 皇此處ニ 上陸シ名 和長シト 天長年ト 山ニ據リ 船ヲ上リ 船以テ其 史ニ其名

營あり、人口は三万を算し、縣下第一の都會なり、此地は山陰道の咽喉に當り、國道を東すれば但馬丹波を経て京都市に達すべく、海岸に沿ふて國道を西すれば、米子を経て鳥根縣の松江に出づべし、南すれば即ち姫路に達すべし。米子は中の海の東南隅に在る小都會にして、日野川其附近を流る、此地は國道の衝に當れるを以て商業盛なり。

米子の北方中の海の口に在る開港場は境にして、境港は港内水深く船舶の出入碇泊に適す、故に常に繁昌を極め、貨物輻湊せり、夜見ヶ濱は米子の東北日野川の河口より、長く海に斗出せる小半島を云ふ。

其他本縣の名邑としては、加露、倉吉等ありて、加露は白珊瑚の採集を以て其名高く、倉吉は緋の製出を以て其名を知らる、

鳥取縣の物産 其重なるものは、實綿、木綿、緋、牧牛、砂金、鐵、白珊瑚等にして海岸は漁業盛なり。

### ◎練習問題

○山陰道



高く、國道は松江の西方今市に於て杵築街道を岐つ。

海岸に沿ひ國道を傳ふて西すれば、濱田港に達す、濱田は石見第一の良港にして開港場なり、船舶の出入常に絶へず、石見地方の貨物集散地たり、此處に歩兵第二十一聯隊の兵營ありて、土地繁華を極む。

濱田の西に長濱あり、又た繁華の地にして、陶器を産す。

三瓶山は出雲と石見の國境の南部に聳ゆる大火山にして、息活山に屬す、其頂上四つの峯に分れ、其中央に舊噴火口ありて、常に炭酸瓦斯を噴出す、三瓶山の西麓に在るは有名なる大森銀山なり。

江ノ川は石見の中央を北に流るゝ大川にして、石見北部一帯の平野を灌漑し、且つ水運の便を助く。

隱岐嶋は松江市を距る北方、四十湊の海に在る大小數多の群島にして、嶋根縣の管轄に屬す、嶋内第一の良港は西郷港にして、其他西ノ島中ノ島等は歴史に其名著しき處なり、本島の住民は漁業を營み、鯖、烏賊、海鼠等の漁獲多く、

之を錫海鼠腸等に製して各地に送る。

嶋根縣の物産 其重なる物は、陶器、紙、砂鐵、銀、人參、蜜柑、麻、綿等にして、世に其名高き布志奈燒、樂山燒等は本縣の特産なり。

### ◎練習問題

- 嶋根縣の管轄區域を問ふ
- 松江市の處在を記せ
- 三瓶山の形狀を問ふ
- 嶋根縣の開港場は何處なるや
- 石見の銀山を問ふ
- 隱岐嶋の物産を問ふ
- 斐伊川に於ける歴史に有名なる處は如何
- 隱岐島に於る歴史に有名なる處は如何

シ給ヒシ  
ハ天照皇  
弟公ナリ

三瓶山ノ  
火口ノ地

其ト云ヘ  
リト云ヘ

飛ノ島ノ  
ノ島ノ地

飛ノ島ノ  
ノ島ノ地

飛ノ島ノ  
ノ島ノ地

飛ノ島ノ  
ノ島ノ地

布志奈燒  
ハ赤黄巴  
ナ焼キ方  
ニア火鉢  
及ビ鉢等  
ヲ製ス

中ノ島ニ  
ハ後鳥羽  
天皇ノ御  
跡アリ

西ノ島ニ  
ハ後醍醐  
天皇ノ御  
跡アリ

立息ノ新  
ノ島ニ

以テスチ  
ノ島ニ

名アリ  
ノ島ニ

火口ノ上  
ノ島ニ

飛ノ島ノ  
ノ島ノ地

飛ノ島ノ  
ノ島ノ地

飛ノ島ノ  
ノ島ノ地

○島根縣の物産を問ふ

### 第六章 山陽道

#### ◎位置及び區劃

山陽道は本洲の西部山陰道の南部に在る一帯の地にして、本道を播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門の八ヶ國に分ち、此に岡山廣島山口の三縣を置きて、分轄す、但し播磨一國は、行政上の便宜に依り兵庫縣に屬す。

#### ◎地勢及び氣候

山陽道の北部は中國山脉に依りて、山陰道と界し、南部一帯は瀬戸内海に面し東は畿内に接し、西の一部は日本海に面し、一部は馬關海峡を隔て、豐前と相對す。

本道の海岸は屈折最も甚しく、大小の港灣到る處に在りて、海上には無數の島

羅列トビ  
トビトビ  
ニナツテ  
ナラシメ  
ルコト  
東ノ大川  
ハ吉井川  
ニシテ西  
ノ大川ハ  
朝日川ナ  
起伏トハ  
出タリト  
コト  
コト  
コト  
コト

嶼、羅列す。

河流の著しきものはなきも、其最も大なるものは、岩國川、太田川及び東西の大川、并に大川とす。

山岳の著しきものは、彌高山、鬼ヶ城山、笠形山那岐の山、蛭山等にして、皆中國山脉中に起伏す。

氣候は山陰道に接する山地及び長門の北部日本海に面する地方は、寒冷なりと雖も、其他は一般に温暖にして、寒暑の差著しからず、且つ降雨少なき地方なるを以て、沿岸は製塩の業盛にして、我國第一の製塩地とす。

且つ沿海の地方は、地味殊に肥へたるを以て、農産の業盛んに、従つて米穀の産出も亦多し。

#### ◎岡山縣

岡山縣廳は備前の岡山市に在りて、備前備中美作の三ヶ國を管轄す。

○山陽道

岡山縣の地勢 本縣は東は兵庫縣の播磨に接し、西は廣島縣の備後に隣り、北方は中國山脈相聳へ、南方は一帶に平地にして、内海に臨む、平地には農産の業盛んに興りて煙草、茶、綿等は殊に其名高し。

岡山縣の鐵道 山陽鐵道は播磨より來つて、東方國境に在る舟阪山の隧道を経て、岡山市に來り、西、倉敷玉島を経て廣島縣に入る、又た岡山より北に一線を出し、美作の津山を経て、勝山に至る、是れ中國鐵道なり。

岡山市は舊池田氏の城下にして、縣下第一の都會なり、西ノ大川即ち朝日川市の中央を流れ、岡山縣廳高等學校地方裁判所等ありて、人口六万を算す、市内は兒島灣に近く水陸の便別て宜しきを以て、商工業盛んに土地大に繁昌す、市の北方に在る公園は、後樂園にして日本三公園の一なり、風光絶佳數奇を極む朝日川の下流海に入る部は、一帶に兒島灣にして、灣の近傍に牛窓の港あり、又た備前燒を以て其名高き伊部は牛窓の北方に在り、刀劍の鍛鍊を以て名高き長瀬は其東方なり。

岡山城ノ  
コトヲ一  
ニ島城ト  
云フ

鍛鍊  
コトヲ一  
ニ島城ト  
云フ

院ノ庄ノ  
歴史ハ兒  
嶋高徳ガ  
後醍醐天  
皇ノ隠岐  
ニ遷サレ  
給フト聞  
キヲ道  
聖ヲ奉  
ラント欲  
シテ成ラ  
ズ即チ御  
館ニ忍ビ  
入リテ樓  
ヲ記シテ  
去リテ庄  
院ノ時ハ  
其當天  
給ヒシ處  
ナリ

倉敷及び玉島の名邑は、共に岡山市の西方海岸に在りて、此地方は製塩の業盛んに、又た疊表、綿等も此地方の物産なり。

津山町は美作第一の都會にして、岡山市の西北にあり、雲齋織の物産を以て其名高し、市街又た繁昌を極む、津山の西に在る名邑は勝山にして、歴史に名高き院の庄も其西方に在り、院の庄には兒島高徳を祀れる作樂神社あり。

岡山縣の物産、其重なるものは製塩、綿、煙草、茶、伊部燒、木綿織、疊表、雲齋織等なり

◎練習問題

- 山陽道の位置及び區劃を問ふ
- 山陽道の地勢を問ふ
- 山陽道の氣候を示せ
- 山陽道の著しき山岳を示せ

○山陽道

○岡山縣の地勢を問ふ

○岡山市の状況を示せ

○岡山縣下の名邑を問ふ

○岡山縣の物産は如何

○岡山縣下に於ける歴史に著名なる處を示せ

◎ 廣 島 縣

廣嶋縣廳 是安藝國廣嶋市に在りて、備後安藝の二國を管轄す。

廣嶋縣の地勢 東は岡山縣に接し、西は山口縣に隣る、北部は一帶に中國山脈にして高く、南は内海に臨みて中央に廣嶋灣あり、故に沿海の地は一般に平地にして、地味肥へ綿、米、麻等の産出多し。

廣嶋縣の鐵道 東岡山縣より來りて、福山、尾ノ道を経へ廣嶋市を過ぎて海岸に沿ひ、岩國に至つて山口縣に入る、又た廣嶋より吳港に至る支線を出す。

廣嶋市ニハ往來ノ便極ニ便チ極セ

中國ノ大

阪ト云フ

シハ全ク

商業ノ盛

ナルヨリ

テ廣嶋ニシ

大阪ヨリハ

西ニ於テ

商業ノ極

メテ盛ン

ナルトコ

ロナリ

嚴嶋神社

ハ平ノ浦

盛ノ建造

ニカハル

水涯ハ水

キリノコ

廻廊ハ廻

廣嶋市は本縣の西部廣嶋灣頭に在る大都會にして、俗に中國の大阪と稱す、廣嶋縣廳控訴院第五師團司令部等の所在地にして、人口十二万を算し、市の中央には太田川流れ、其支流市内を縦横に走りて、水陸の運輸至便に、商業大に發達して、其繁華なること實に大阪に次ぐ。  
太田川の河口は宇品港にして、此の附近の海中より牡蠣海苔の採收極めて多し。廣嶋灣内には倉橋島、江田嶋、宮島等の有名なる嶋なり、灣の東岸に在る軍港は吳にして、第二海軍鎮守府海兵團及び海軍造船所あり、吳港の前に横はれるは、即ち江田嶋にして海軍兵學校あり。  
宮嶋又嚴嶋は廣嶋灣の西方海上に在り、嶋には嚴嶋神社あり、社殿は水涯にありて長き廻廊は左右に延び、更に曲りて神殿を包む、潮水來れば神殿廻廊共に波間に浮びて、其壯觀喩ふるに辞なく、且つ神殿の背に在る丘陵亦た幽邃にして、天然の佳景に人意の結構を加ふ、實に日本三景の一なり、又た近頃海中に石造の大鳥居は建られぬ、其高さ三十尺以上に及び、其太さ十尺を算すと云ふ







南海道は紀伊淡路の二國と四國島とを合せて云ふものにて、紀伊は本州の中部より南方に斗出し、淡路は瀬戸内海に在り、此に阿波、讃岐、伊豫、土佐の四國を合し、六國と成る因て南海道は六國に分たれ、此に和歌山、徳嶋、香川、愛媛、高知の五縣を置きて分轄す、但し淡路島のみは、行政上の便宜に依り兵庫縣に屬す。

### ◎地勢及び氣候

本道は四國山脈東西に亘り、其より支脈を南北に出し、且つ九州島より來れる阿蘇火山脈四國に渡りて、噴起せるを以て、山脈四國全島に擴がり、到る處山岳あり、唯吉野川の流るゝ阿波一帶の地方のみは平野なれども、他は概ね高地にして、著しき平野を見る能はず、其山岳の著しきは劍山、笹ヶ峯、石槌山等とす。

河流は東流して太平洋に入る吉野を第一とし、之に亞ぐものは仁淀川とす、又

た紀伊の紀ノ川も大なり。

氣候は一般に温暖なり、只伊豫讃岐の山地は稍や寒冷なりとす、又た紀伊の南端土佐の南方は、我國第一の降雨多き地とす

本道の地味は河流の灌漑十分なるを以て、一般に肥沃にして農業に適し殊に藍の發生我國第一とす、又た海岸各地には水産の利多し。

### ◎和歌山縣

和歌山縣廳は紀伊國和歌山市に在りて、紀伊の七郡を管轄す。

和歌山縣の地勢 四國山脈の本洲に渡りて、紀伊山系を起すを以て、本縣下は一般に山岳を以て滿され、平地少なし然れども紀ノ川の流るゝ沿岸地方は、一般に平地にして、且つ地味肥たり、本縣は東西南の三方海を以て圍まれ、其南端を潮岬と云ふ、潮岬より東北の海上は熊野浦にして、西北の海上は紀州灘なり、潮岬の東に一大島あり、大島と呼ぶ、本縣の海岸は屈折少なく、從つて良

港なし、唯西部海岸に田邊及び湯淺の二港と、東部海岸に新宮とあるのみ。

和歌山縣の鐵道は大阪より來る南海鐵道と和歌山市に達し、奈良縣より來れる南和鐵道と和歌山市に達して、奈良縣と大阪府との連絡を爲す。

和歌山市は本縣西北隅に位し、紀ノ川市の北を流る、南海道第二の都會にして、人口六萬を算し、和歌山縣廳の所在地なり、市中は商業盛にして、市内處々に紀州フランネルの工場あり、此地は陸路大和、和泉、大阪に接し、海路は淡路四國神戸等へ通するを以て、貨物の集散非常に宜し。

和歌山市を距る南方一里餘の海岸は、即ち有名なる和歌の浦にて風光の眺め殊に宜しく、日本三景に亞ぐ勝地なり。

高野山は市の東方に聳ゆる峻山にして、山上には弘法大師の開きたる金剛峯寺あり、山は官林に屬すを以て數百年を経たる老樹繁茂し、其間に寺院あり、勝地ありて、實に我國有數の靈地とす。

高野山の西北に名地あり、粉河と云ふ、即ち粉河寺の在る處なり。

那智山は高野山に並ぶ峻山にして和歌山市の東南に在り、山間の瀧は即ち那智の瀧にして、高さ八十四丈巾十八間あり、我國第一の大瀑布なり。

新宮は本縣下の名邑にして、東部海岸熊野川の河口に在り、其海上は熊野浦にして、此處より那智の大瀑布を望み得べし。

湯淺及田邊は、西部海岸の良港にして、大阪神戸と汽船の往復あるを以て、土地大に賑へり。

和歌山縣の物産 其重なる物は、綿フランネル、蜜柑、黒江塗等なり

### ◎ 練習問題

- 南海道の地勢を問ふ
- 南海道の河流を示せ
- 南海道の氣候を問ふ
- 和歌山市の狀況を示せ

○和歌山縣下の勝地を問ふ

○和歌山縣の物産を問ふ

◎德島縣

德島縣廳 是德島市に在りて、阿波全國を管轄す。

德島縣の地勢 本縣は四國島の東部に位し、東南一帯の地は太平洋に面し、西北は四國山脈及び讃岐山脈相連り、西方土佐の境に殊に高く聳ゆるは劍山なり北部地方は即ち阿波平野にして、吉野川の灌漑に依り、土地大に肥へ、有名なる阿波藍、砂糖等は此の平野より産出せらるゝなり。

德島縣の鐵道 是德島市に起りて、平野を西に走り鳴島川島等を経て船戸に達して止む。

德島市は本縣の東北隅に位し、吉野川の河口に在り、德島縣廳の所在地にして人口六万三千を算し、南海道第一の大都會なり、水陸の交通便利にして、大阪

市とは日々汽船の往復あり、且つ國內の産物は皆本市に集りて、四方に送り出さるゝに依り、市内は商業盛んにして、土地大に富む、本市の西方に鴨嶋船戸等の名邑あり。

德徳市の北方鳴戸海峡に面する海岸に良港あり、即ち撫養港なり、淡路嶋に渡る要津にして、船舶の出入常に絶へず、爲に港内繁華を極む。

有名なる鳴門は此の附近の海上に在りて、潮流大岩礁を衝きて、大小二個の渦巻を成り、其響雷の如く一里餘の處に在るも、其響き手に取る如く聞ゆる凄し、其大なる方は直径一里に亘る渦を巻く、之を大鳴門と云ひ、小なるものを小鳴門と云ふ。

國道は德嶋市より海岸に沿ふて南し高知縣に入る。德嶋縣の物産 其重なる物は藍、砂糖、塩、緞織等にして海産物亦た多し。

◎練習問題

○南海道

要津ハヨ  
キ船ツキ  
場船ノコ  
トナリ

徳島トハ  
阿波トハ  
谷ニ云フ  
阿波トハ  
ミノコト  
ニテ徳島  
市及ビソ  
リノ附近  
産出ス

- 徳嶋縣の地勢を示せ
- 徳嶋市の状況を記せ
- 鳴門の状況を問ふ
- 徳嶋縣の物産を列舉せよ
- 撫養港の位置を問ふ

◎ 香川縣

香川縣廳 是高松市に在りて、讃岐一ヶ國を管轄す。  
 香川縣の地勢 本縣は南方に讃岐山脈連りて、徳嶋縣と界し、東西北の三面は瀬戸内海に面す、南方は一帶に高地なれども北方沿岸は一般に平地にして、讃岐平野を爲し、米穀甘蔗の産出夥しく、米穀は四國第一の收穫なりと云ふ、又九沿岸の地方は、製塩の業盛にして漁利亦た多し。  
 香川縣下は最も甘蔗の栽培に適するを以て、農家は一般に甘蔗の栽培を營み、

栽培トハ  
ウエンダ  
アルコト

其産額我國第二とす、(第一は臺灣嶋なり)故に従つて砂糖の産出多し。

香川縣の鐵道 是高松市に起り、西南に走り丸龜、多度津、善通寺を経て、琴平に達して止む、國道は高松より東に海岸に沿ふて、徳嶋市に達す、其間に志度、引田の名邑あり。

高松市は讃岐中部の北方海岸に在り、香川縣廳の所在地にして、大阪神戸及び中國の諸港より來る船舶の出入常に絶ゆることなく、徳嶋市に亞ひての都會なり、市中は一般に商業盛にして、縣下の物産は皆な此地に集り、其れより船舶の便に依りて各地に送らる。

高松市の東方海岸に在る名邑は志度ヶ浦なり、志度と高松市の中間に在る古戰場は屋嶋にして、有名なる五劔山は志度の西北海中に斗出したる半嶋上に聳へり。

志度ヶ浦より東方は讃岐平野の地味最も肥へたる地方にして、米穀、甘蔗、楡砂糖等は此地方にて産出さる。

○ 南海道

屋嶋ハ平  
家ノ軍一  
ノ谷ニ敗  
來リテ逃  
處ニシテ  
此ニシテ  
義經ノ軍  
アト平家  
ノ門ノ屋  
ノ浦ニ逃  
五劔山ハ  
又タ八咫  
山トモ云

高松市の東北に當る海上に在る大なる嶋は、有名なる小豆嶋にて、嶋中に紅葉の名所寒霞溪あり、小豆嶋へは汽船の便ありて交通自在なり。

高松市の西方に在る名邑は丸龜町にして、第十一師團の兵營あり、其西に在る港は多度津にて、本縣第一の良港なり、善通寺は多度津港の南に在り、此に第十一師團司令部を置かる、象頭山金刀比羅神社は、善通寺の南琴平町に在りて、參詣者四季絶ゆることなく、故に琴平の市街は大に賑へり。

香川縣の物産 其重なる物は、米穀を第一とし、白砂糖、鹽、之に亞ぎ其他醬油、保多縞織等其名高し。

◎練習問題

- 高松市の概況を問ふ
- 高松市東部の名邑を問ふ
- 高松市西部の名地を列舉せよ

○香川縣の農産物の狀況を問ふ

◎愛媛縣

愛媛縣廳 は松山市に在りて伊豫全國を管轄す。

愛媛縣の地勢 南部は四國山脈に依りて、高知縣と堺し、東部は香川縣に接し北部は内海に臨み、西部は豊後水道に面す、且つ中國山脈の間に、阿蘇火山脈起伏して、石槌山高く聳へ、山脈の支脈縣下に廣がるを以て、平地少なし、而して北及び西の海岸は屈折最も多くして大小の港灣あり

愛媛縣の鐵道 は松山市を起點として、四方に岐る、一は海岸に走りて、三津ヶ濱に達し、一は道後に赴き、一は立花を経て横河原に達し、一は郡中に至る此の四方に岐る鐵道は松山市の附近に散在せる名邑を連絡せしのみにて、凡ての交通は、國道に依らざるべからず。

松山市は本縣の中部、瀬戸内海の邊に在り、愛媛縣廳歩兵第十旅團の司令部あり

○南條道

フ其ノ頂ニ五ツノ峰アルヨリ五ノ名アリ併シ今ハ其ノ一ナク

が、人口三万五千を算して、伊豫第一の都會なり、市中は商業盛んにして、木綿織を産す、即ち松山綿なり。

三津ヶ濱は有名なる魚市場にして、松山市の西に隣れる海岸にありて、土地別けて繁昌せり、三津ヶ濱の海上には小島多く、其中にて名高きは伊豫の小富士と呼べる興居島なり。

道後は古來より温泉の涌出を以て其名高く、四國第一の温泉場にして、四季浴客の絶ゆることなく、土地爲めに大に賑ふ、松山市よりは汽車の便あり。

別子銅山は松山市の東部に在りて銅を産す、其の北方海岸にあるは、今治港にして、本縣東北部の要港なり。

本縣の西南に斗出せるは佐田岬にして、佐田岬の南方高知縣に近き處に良港あり、宇和島と云ふ、宇和島は豊後水道に面して船舶の交通別けて宜しく、市街は商業盛んにして、木綿織物及び紙を産す。

宇和島の北方に在る名邑は大洲にて、其東北に在つて名高きは八幡濱及び長濱

にして、此邊一帯の地は紙を産す。

愛媛縣の物産 其重なる物は、木綿織物、紙、銅、鐵、鹽及び海産物なり。

### ◎ 練習問題

- 愛媛縣の地勢を問ふ
- 松山市の状況を示せ
- 三ヶ濱の状況を示せ
- 宇和嶋の概況を問ふ
- 愛媛縣下の重なる物産を列舉せよ

### ◎ 高知縣

高知縣廳 は高知市に在りて土佐全國を管轄す。

高知縣の地勢 本縣は四國嶋の南部太平洋に面する一帯の地方にして、東西北

○ 南 海 道



土佐藩ハ  
此十年ニ  
此地方ニ  
大其時ニ  
此ノ海一  
休ノ状ニ  
ナ弓ノ取  
割レテ取  
リテ取  
クナリ  
云フ

の三面は、四國山脈阿蘇山脈互ひに連りて高地を爲す、南方太平洋に面する地  
方は、土地平にして地味肥へ、農業の業に適し、米穀果實の發育頗る宜し、南  
部一帯の海岸は、即ち土佐灣にて鯨の魚利夥しく、鯨の漁利は全國第一にし  
て、之を鯨節に製す、即ち土佐節なり、土佐灣は東室戸岬西陸路岬に依りて形成  
せらるゝ大灣にて、上古大地震の爲め、土地弓狀に陥りて海と成りしものなり  
と云ふ。

高知縣には未だ鐵道の敷設なし、故に陸上の交通は海岸に沿へる國道に依るの  
外なし、然れども三面皆山脈なるを以て、他國との交通は海路に依るを至便な  
りとす。

高知市は本縣平野の中部土佐灣に臨む處に在り、市の北方を流るゝは仁淀川ニドガハ  
の支流にして鏡川カキガハなり、本縣第一の大都會にて人口三万五千余を算し、高知縣廳  
及び歩兵第四十四聯隊の兵營あり、水運の便宜しきを以て、市内は商業盛んに  
土地大るに賑へり、市の前に在るは即ち浦戸港ウラドなり、高知市の西海岸に高岡及

鯨節ハ一  
ニ土佐節  
ノ名世ニ  
高知縣ニ  
ア産スル  
國産ハ我  
品質精良  
トナルモ  
ナシ

び須崎の二港あり、共に良港にして鯨節及び土佐紙を製す。

高知市の東方海岸に在る名邑は、夜須ヤスにして本縣東海岸の小都會なり。

高知縣の物産 其重なる物は、鯨、鯨節、鯨等の水産物を始として、米穀、果  
物及び土佐紙等なり。

### ◎ 練習問題

- 高知縣の地勢を問ふ
- 高知市の状況を問ふ
- 鯨節及び土佐紙の産出地は何處なるか
- 高知縣の物産を列記せよ

## 第八章 西海道

### ◎ 位置及び區劃

○ 西海道

西海道は本洲及び四國の西南に位する、即ち九州嶋にして、北は日本海と瀬戸内海に臨み、東北は太平洋に面し、西は支那東海に向ふ、本道を分けて筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對馬、及び琉球の十二ヶ國とす、而して壹岐、對馬、琉球の三國は九州嶋より離れて、南北の海洋中に在る嶋嶼なり、此に大分、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島及び沖繩の八縣を置て分轄す。

### ◎地勢氣候及び生産物

本道の山脈は南北に在りて其間に霧嶋阿蘇の二大火山脈相交りて四方八方に連り廣れり、其北に在るは肥筑山脈にて、脈中文珠山、鶴見山、英彦山等最も高く、南に在るは南部山脈にして、脈中市房山、祖母ヶ岳、國見山、桑原山、等最も高く、霧島火山脈には海開岳、霧島山、櫻嶋、温泉ヶ岳等最も高く、阿蘇火山脈には、阿蘇山、金峯山等最も高し。

本道の河流は南北の山脈より發して、四方に分流す、其中にて大なるものは、筑後川、川内川を第一とし、此に亞ぐは玖摩川、大淀川、五個瀬川等なり。山脈各地に相連ると雖ども、各川の流域には平野多く殊に各川の濶漕十分なるを以て、土地一般に大なるに肥へ、農産の業頗る振へり、其平原の最も大なるものは、筑後川の沿岸にして、所謂筑紫平原是なり。

氣候は我國の西南部に屬するを以て、一般に温暖なりとす、然れども地勢に依り、中央山地或は西北部一帯の地は、支那及びシベリヤ大陸より來る寒風を受けること多きを以て、其東南部地方に比すれば、大なるに寒し、雨は我國第一の多き地方なりとす。

本道は氣候殊に温和に且つ降雨多く、平野は概して肥沃なるを以て、米穀、果實、煙草、甘藷、綿、藍等の農産物頗る豊かに、山脈は高山に富めるを以て、木材石材を出すこと夥しく、又た金銀銅石炭の産出も多し、其金と石炭の産出は本道を以て我國第一と爲す。

### ◎福岡縣

福岡縣廳は福岡市に在りて、筑前筑後の二ヶ國と豊前の四郡を管轄す。  
 福岡縣の地勢 本縣は北部に於て、山脈四方に亘るも、南部は一体に平地にし  
 て、即ち筑紫平原を爲し、筑後川の灌漑を得て地味殊に肥へたり、本縣の豊前  
 は瀬戸内海に臨み、筑前は北部に位するを以て、玄海灘に面し、筑後の西部は  
 筑紫海に臨む、而して筑前筑後豊前の國境は、山脈を以て限らる。  
 福岡縣の鐵道 我國の鐵道中、本縣下は支線多く出るはなし、即ち九州鐵道  
 は豊前の門司より起り、西小倉に於て支線を出し、一は南に走り行橋に至つて  
 豊州鐵道と合し、其れより大分縣に入り、一は後藤寺川崎等に向つて走り、其  
 より本線は西に進み、折尾に於て南北の二線を出す、北するものは若松港に達  
 し、南するものは直方に至る、本線は更に西南に進んで、香椎、箱崎を経て福  
 岡市に入り、博多を過ぎて肥前に入り、而して本縣の筑後に入りて、久留米に

一區域ト  
ハ一ツツニ  
コト

福岡市ニ  
ハ福岡縣  
ナリ

福岡市ニ  
ハ福岡縣  
ナリ  
元兵ノ始  
メテ上陸  
セシ處ナ  
リ  
香椎ノ宮  
ハ神功皇  
后ヲ奉祀  
ス  
箱崎神社  
ハ應神天  
ノ奉祀

達し、而して熊本縣に走るなり。

福岡市は本縣第一の大都會にして、博多と一區域を爲しつゝ、博多灣に臨む、  
 市の中央を貫通するは那賀川なり、那賀川の東部は博多にして、西部は福岡な  
 るも、今は合して一と成る、故に福岡市は福岡と博多とより成るなり、福岡縣  
 廳及び歩兵第二十四聯隊の所在地にて、人口六萬五千を算し、水陸の便宜しく  
 物貨の輸出入盛んにして、船舶輻湊す、市内は博多織の名産を出し、商業別け  
 て振へり、本市より諸方へ輸出する重なる物は、米穀及び石炭なりとす。  
 太宰府は福岡市の東南に在りて、太宰府神社は菅公を祀る。  
 博多灣の東部海岸に歴史に名高き勝地あり、即ち香椎箱崎にして、香椎には香  
 椎神社あり、箱崎には箱崎神社あり、此邊一帶の海岸は、即ち古の鞆濱なり、  
 久留米市は筑紫瀧（有明の海）の東北隅にて、筑後川の河口にある大都會にし  
 て、即ち久留米新の産出地なり、市内には歩兵第二十四旅團の司令部あり、又  
 た有名なる水天宮神社あり、商業盛んにして土地繁華を極む。

探掘トフ  
山ヲホツ  
テ石炭ヲ  
採リ出ス

市の南に在る鏡山は三池炭鏡にして、石炭の産出我國第一と稱せらる、三池より探掘せる石炭は之を大牟田に送りて諸方へ運搬す、大牟田は筑後の南端に在る良港にして、船舶の出入常に絶へず。

門司市は豊前の北端に在る大開港場にして、其對岸は山口縣の馬關なり九州鐵道の起點にして、山陽鐵道と連絡を取る、即ち中國に渡る要津なれば、其繁昌亦た盛なり、本市より輸出さるゝ其重なる物は石炭なり。

小倉は小倉織の産出地にして、第十二師團司令部の在る處、市街亦た繁昌を極む若松港は筑前海岸の最良港にして、石炭の輸出夥しく、小倉の西方に在りて、九州鐵道の支線小倉より來る、又た官設大製鐵所あり。

筑後川は一に筑紫二郎と呼び、我國三大川の一にして、其源は肥後の山脈中より發して、豊後に入り、筑後を経て筑紫灣に注ぐ、本川の流過する沿岸地方は一般は平野にして、地味肥へ、殊に筑紫平原を構成して、世に名高き肥後米の産出地は本川の沿岸地方なりとす。

福岡縣の物産 其重なる物は米、藍、菜種、生蠟、博多織、久留米絨、小倉絨、莫蔭、疊表等にして、石炭の産出は我國第一なり。

### ◎ 練習問題

- 福岡縣の地勢を問ふ
- 福岡市の状況を記せ
- 福岡縣下の名邑及び良港を問ふ
- 福岡縣の重なる物産は如何

### ◎ 大分縣

大分縣廳 は豊後の大分町に在りて、豊後全國と豊前の二郡を管轄す。  
大分縣の地勢 本縣は九州島の東北部に位し、北は瀬戸内海に臨み、南は豊後水道に面して、其對岸に斗出せる伊豫の佐田岬と、速吹海峡を爲す、九州島の南北山脈及び阿蘇火山脈本縣に於て互に相結合するを以て、縣下は一般に山岳

○ 西海峯

多く、北方に聳るは文殊岳にて、南方に峙つは祖母ヶ岳なり、東北方に殆んど圓形を爲して瀬戸内海に斗出せるは、國東半島なり、河流は大野川南部を流れ、其沿岸の平野は地味豊かにして、生蠟、米穀等を産し、又た牧牛の業大に振へり、豊後富士は西に聳ゆる活火山なり。

豊後富士  
ハ由布岳  
リコトナ

大分縣の鐵道 は豊前の行橋より本縣に入り、中津を経て宇佐に至つて止む、故に宇佐以南の交通は、海岸に沿へる國道に依らざるべからず。

大分町は本縣第一の都會にして、大分縣廳の所在地なり、此邊一帯の海岸は即ち大分灣なり、大分町は灣に臨み水運の便宜しきを以て、土地亦た繁昌を極め市内に釜鍋の製造を營む者多し。

宇佐神社  
ハ西海社  
社第一ノ大

別府は有名なる温泉場にして、大分町の北部海岸にあり、前は大分灣にして、背に聳ゆるは即ち豊後富士の稱ある由布ヶ岳の活火山なり。大分灣の東南に有名なる佐賀の關あり、臼杵、佐伯等は共に本縣の南部海岸に在る名邑にして、常に船舶の出入絶へず、附近の海岸は一般に漁業盛なり。

宇佐神社  
ハ西海社  
社第一ノ大

宇佐は歴史に有名なる宇佐神社の在る處にして、豊州鐵道の終点なれば市街は商業盛なり、此邊より壘表を出す、彼の一口に琉球表と云へるは此邊にて製するものなり。

宇佐の北方海岸に在る名邑は中津にして、山國川の河口なり、此地又た繁昌を極む、彼の頼山陽翁が海内第一の勝地と激賞せし、耶馬溪の勝を探らんとせば中津より山國川に沿ふて上るべし。

大分縣の物産 其重なる物は、米穀、牧牛、生蠟、壘表、釜鍋等の鐵器なり、又た海産物の産出夥し。

◎ 練習問題

- 大分縣の地勢を問ふ
- 大分町の状況を問ふ
- 大分縣下の良港を問ふ

宇佐神社  
ハ西海社  
社第一ノ大  
山國川  
上流ナリ  
石臼ナリ  
木サナリ  
充サナリ  
メノ風光  
ナメルナリ



◎練習問題

- 佐賀縣の地勢を問ふ
- 佐賀市の状況を記せ
- 佐賀縣下の陶器産出地を問ふ
- 唐津の概況を問ふ
- 佐賀縣の物産如何

◎長崎縣

長崎縣廳 は長崎市に在りて、肥前西部の六郡と、壹岐及び對馬の二島を管轄す。

長崎縣の地勢 本縣は三面皆海にて、海岸の屈折夥しく、殆んど半島を四方向り結合したる如くにして、其形狀宛然鳥の飛べるが如し。

長崎縣の鐵道 は九州鐵道の支線佐賀縣の有田より本縣に入り、早岐に於て佐世保軍港に達する支線を出し、本線は大村灣即ち鯛の浦の海岸に沿ふて長崎市に至りて止む本縣の西部海岸上には、大小の島嶼夥しく散在し、大なるものは五島列島とす。

長崎市は大村灣の西岸を構成せる彼杵半島の南隅に在り、三方山を以て圍れたる、我國第一の良港にして、且つ最も古き開港場なり、人口十五方を算し、九州島第一の繁華なる大都會なり、縣廳控訴院地方裁判所等なり、港内水深くして波高からず、船舶の碇泊に最も宜しく、内外國の商船常に湊輻して、貿易盛んに行はる、輸出品の重なる物は、米穀石炭及び雜貨にして、輸入品の重なる物は石油、砂糖、練綿、牛皮等なり、港内に造船所製鐵所あり、又た本港より輸出する石炭は重に高嶋炭にして、其産出地たる高嶋は、港口の西方海中に在り、長崎市の東方に南へ斗出せる半嶋あり、即ち島原半島にして、其東岸にあるは島原町なり、半島の南端に良港あり、口ノ津と稱して、船舶の出入多く、

長崎市ノ  
ハ中ヨリ  
ハ煙草及  
シテ甲細  
王ヲ出ス

不知火ト  
ハ秋ノ夜  
ニ燃ル  
ニハ上ノ  
燐火ト  
ユルコト  
ナクフ口  
ノ津邊ヨ  
レバ實見  
ト云フ

其南方の海上に横はれる大嶋は天草島にして、此の附近の海上に有名なる不知火の奇観あり。

佐世保は大村灣内の北岸に在る軍港にして、第三海軍鎮守府及び海兵團あり、又た堅牢なる船渠ありて、市街は商業盛んにして常に繁昌を極む、白露戦争の初に當り、聯合艦隊の根據地たりしは佐世保なり。

大村町は佐世保の南に在る名邑にして、歩兵第四十六聯隊の兵營あり、佐世保軍港の西北の海上に在る大なる島は、平戸島にして、平戸港は其北岸に在り、元寇の役敵軍の風波を避ん爲め、立ち籠りたる鷹嶋は、平戸嶋の北に隣れる小島なり。

五嶋列嶋は、長崎縣に於ける有名なる漁業地にして、鯨鯨の魚利多し、此島五つに分るゝを以て、五島と云ふ、南北に大島ありて、其中間に三個の小島あり、南に在るを福江島と云ひ、北に在るを中通嶋と云ふ。

壹岐嶋は長崎市を距る七十余哩の北方海中に在り、其面積八方里半を有し、嶋

中の郷ノ浦は東岸に在る良港にして、勝本は嶋中の名邑なり。

對馬は南北の二嶋より成りて、面積四十四方里半を有す、本嶋は朝鮮の釜山と僅かに三十四哩を隔つるのみにて、實に日本海の關門に當る、故に對馬警備隊の設けありて、日本海方面を守備す、嚴ヶ原は南島にある名邑なり。

長崎縣の物産 其重なる物は石炭、米、煙草、籠甲細工物、鯨、鯨、錫等なり。

### ◎ 練習問題

- 長崎縣の地勢を問ふ
- 長崎市の状況を問ふ
- 佐世保軍港の位置及び状況を問ふ
- 壹岐及び對馬の一般を記せ
- 長崎縣下の名産を問ふ

### ◎ 熊本縣



熊本縣廳は 熊本市に在りて肥後一國を管轄す

熊本縣の地勢 北は福岡縣に接し、東南は阿蘇山脈と南部山脈とを以て圍まれ、東部の中央に屹立して、絶へず火煙を吐くは阿蘇山なり、南部を流るゝは日本三大急流の一たる玖摩川なり、西北は一帶に平野にして地味肥へ、米麥甘藷等を産し殊に米は肥後米の名を以て知られたり、又た此の平野に於て牛馬を盛んに飼養し名牛駿馬を出す。

熊本縣の鐵道 は福岡縣の久留米より南に走つて田原阪を越へ、熊本市に入つて、南八代に終る、又た支線は熊本市の南方なる宇土に於て岐れ、宇土半島を西に走つて三角港に達す。

本縣の海上に在る群島は天草嶋なり。

熊本市は本縣の中央海岸を距る二里の東に在る大都會にして、四面皆平野なり、市の南部を流るゝは白川にして、人口六万を算し、其商業の盛なる九州第一とす、縣廳第六師團司令部及び第五高等學校等ありて、市内の産物には朝鮮餉、

四ノ役  
ハ明治  
十ノ年  
ノ乱  
コトナリ

木綿織等其名高し、熊本城は我國の有名堅城にして加藤清正の建造にかゝり、西南の役谷將軍の籠城せし處にて、今は第六師團の司令部を置かる。

宇土半島は市の南に長く海中へ西に向つて斗出す、其西端は即ち三角港にして開港場なり、本縣よりの輸出米は一般に此の三角港に於て積み出さる。

宇土は宇土半島に在る名邑にして、玖摩川は其南方を流れ、八代は玖摩川の畔に在る繁華の市街なり、此附近よりは甲田燒、疊表、セメント等を産す。熊本市の北に隈府、山鹿、高瀬等の市街ありて、共に繁華を極む。

熊本縣の物産 其重なる物は、肥後米、牛馬、麥、甘藷、セメント、疊表、甲田燒、木綿織等なり。

### ◎練習問題

○熊本縣の地勢を問ふ

○熊本市の概況を記せ

○四海道

○熊本縣下の良港を問ふ、

○熊本縣の物産を列記せよ

○熊本縣下に在る火山脈は何山なるか

### ◎宮崎縣

宮崎縣廳は宮崎町に在りて、日向一ヶ國を管轄す。

宮崎縣の地勢 南は鹿兒島縣の大隅に接し、東部一帯の地は太平洋に面し、西北は山脈相連りて、其支脈國內に廣がるを以て、平野に乏し、然れども東部海岸地方は一帯に平地にして、大淀川及び五個瀬川の灌漑を受けて地味大るに肥へ農業に適す、又た山地は牧畜の業に適するを以て、牛馬の飼養盛なり。

宮崎町は本縣の南部海岸に近き處に在りて、大淀川其南を流れ、四方數里の間は一般に平野にして、地味最も肥ゆ、宮崎縣廳此處に在り、町は小にして人口僅かに一萬に足らずと雖ども、縣廳の所在地なるを以て、亦た繁華なり、本縣

には鐵道なきを以て、交通は概ね海岸に沿ふたる國道に依らざるべからず、宮崎町には宮崎神社ありて神武天皇を奉祀す、

宮崎町を中心として南北に名邑あり、其北に在るは延岡にして西南に在るは有名なる都の城なり。

延岡は本縣の北部五箇瀬川の下流に在る名邑にして、人口一萬を算し、熊本縣より來る國道と大分縣より來る國道との會合点なるを以て商業振ひ市街賑ふ。都の城は大淀川の上流にして、宮崎の西南方國境に近き處にあり、人口一萬餘を算して、本縣第二の繁華なる市街とす、歴史に名ある高千穂の宮趾は、此地にあり、此近方より製茶を産出す。

霧嶋山は都の城の北方國境に聳ゆる大噴火山にして、其頂東西の二峯に分れ、西峯は息火山の状態に在るも、東峯は常に火烟を吐く、天の逆鉾は其頂上に立てる長さ一丈余の石なり、

宮崎縣の物産 其重なる物は茶米穀馬匹海産物とす

延岡ハ本  
縣第一ノ  
繁華ナリ

高千穂ノ宮趾ハ  
神代ノ世ニ  
天孫降臨シ給  
テ此ノ地ヲ  
間此ノ地ニ  
住ル其址ナリ  
天ノ逆鉾ハ  
トハ石ニ  
ア長サ一  
丈二三尺

太サ大ナ  
竹ホド  
アルモノ  
ガ山ノ頂  
上ニ立ツ  
テ井ア其  
石ノ頭ガ  
鬼ノ面ハ  
如キノ形  
ナキセル  
ルモノ思  
ハズナル

◎ 練習問題

- 宮崎縣の地勢を問ふ
- 宮崎町及び延岡の概況を問ふ
- 都の城の概況を記し高千穂の宮趾を説明せよ
- 霧島山の状態を問ふ

◎ 鹿兒島縣

鹿兒島縣廳は鹿兒島市に在りて、大隅薩摩の二國を管轄す。  
鹿兒島縣の地勢 北は熊本宮崎の二縣に接し、西南は太平洋及び支那東海に面し、縣下は山岳諸處に聳へて、殆んど平地なし、唯だ川内川の流過する地方、及び海岸地方に平地あるのみ、本縣は東大隅半島と西薩摩半島に依て、一つの深き大灣を爲す、鹿兒島灣と稱す、灣内に櫻島あり。

鹿兒島縣の鐵道は鹿兒島市に起り、鹿兒島灣に沿ふて東北に走り、加治木より北に曲つて國府に至るものあるのみなるを以て、其多くは國道に依りて交通せざるべからず。

鹿兒島市は九州嶋南部の大都會にして、薩摩の中央に位し、鹿兒島灣の西岸に在り、甲突川市中を流れて鹿兒島灣に入る、市の西北には城山あり、市の前には櫻嶋ありて、天然の風景を添ふ、人口五萬六千を算し、鹿兒島縣廳の所在地なり、港内水深く船舶の出入碇泊に便なるを以て、百貨輻湊し。市内は殊に繁昌を極む、櫻嶋は霧嶋山脉の海中噴起せるものにて、其土質は概ね砂地なるを以て、一般の農業に適せずと雖ども、密柑及び大根の産出多く、櫻嶋大根は美味にして、且つ大なるを以て其名高し。

大隅の加治木福山は、鹿兒島灣の沿岸に在る名邑にして、福山は名馬を産し、加治木は其の北方の山中より金及び銀を産す。  
國府煙草の名を以て世に知られたる煙草の産地、國府は加治木の東北方にある

名邑なり。

薩摩の出水及び阿久根は共に鹿兒島市の西北方に在る名邑にして、阿久根よりは焼酎を産す。

加世田坊  
津ヨリ  
ノ津ヨリ  
産出スル  
節ハ即  
チ薩摩節  
ノトナ

其他薩摩の南部沿岸には、揖宿、山川、坊ノ津、加世田等の名邑あり、何れも船舶の出入ありて、漁獵の利多く、殊に坊ノ津、加世田は鯉節の製作を以て其名高し。

薩摩富士の名ある有名なる開聞ヶ岳は、薩摩半嶋の西南に聳へ、海上遙かに沖合より望み得らるるを以て、航海者に便利を興ふること少なからず。

本縣の西及び南海上には、歴史に關係せる數多の大小嶋嶼散在す、其重なるものを擧ぐれば左の如し、

西部海上に在るものは飯島にして二嶋に分る、南部海上にあるものは種子ヶ島寶七島、大島及び屋久嶋なり。

此の中に於て種子ヶ島はホルトガム人の我國に始めて鐵砲を傳へし島にて、昔

備後寛  
平氏  
サシ  
怒ニ  
ア流  
ケル  
ニ在  
嶋ノ  
ナ

は種子ヶ島鐵砲と云ふて、大るに稱用されたることあり、大嶋は大嶋紬黒砂糖の産出を以て名高く、寶七島よりは鯉節を産し、屋久嶋よりは松の名木を出す斯の如く南部に在る群島は、種々の産物を出して、島民は其れを鹿兒島に送りて諸方へ輸出す。

鹿兒島縣の物産 本縣は物産に富みて、國中の山岳よりは金銀錫を出し、木材を出す、農産物は煙草、甘藷、其名殊に高く、工業品には大嶋紬、薩摩紬、焼酎、薩摩焼等其重なる物にて、魚類の産出亦た夥しく、別て鯉節は其名高し、又た牛馬豚等を盛んに出す。

◎練習問題

- 鹿兒嶋縣の地勢を問ふ
- 鹿兒島灣の構成を問ふ
- 鹿兒嶋市の状況を問ふ

○西海道

○鹿兒島市の南部沿岸に在る名邑を問ふ

○鹿兒島縣の南部海上に在る著名なる嶋嶼の狀況を問ふ

○鹿兒嶋縣の物産を列舉せよ

◎沖繩縣

沖繩縣廳 是琉球群島中の沖繩嶋の那覇ナハに在りて、全群嶋を管轄す。

沖繩縣の地勢 本縣は鹿兒島縣の西南の海上に、南北に長く羅列せる五十余の群島にして、總括して琉球と云ふ、此の五十余の群島を沖繩、宮古、八重山の三群島に區別す。

沖繩島は北部に在る群島にして、八重山群嶋は南部に在り、其仲間ウチマに在るは宮古群島なり。

琉球列島には山岳諸處に隆起すと雖とも高からず、海岸は一帶に平地なれども、水の灌溉に乏しきを以て、米穀の生育に適せず、島民は甘藷カンショを作り、又は甘蔗カンザ

を作りて砂糖を製し、且つ盛んに豚を飼養す。

氣候は極めて暖和にして、嚴冬の頃と雖ども、降雪降霜を見ることなし

那覇ナハは琉球第一の都會にして、沖繩群島中の南に位する國尻嶋クニシヅに在る開港場なり、人口四萬を算し、沖繩縣廳の所在地にして、本縣の産物悉く此處に集りて四方に輸出す、故に商業盛にして市街は殊に繁昌を極む。

那覇を距る一里の東に在るは、首里城シムラにして、元琉球王尙氏セムの居城なり、此地風景極めて宜しく、市街亦た繁昌を極め人口二萬五千を算す。

交通は素より群嶋なるを以て、船舶に依らざるべからず、那覇、宮古、石垣の三島には、大阪及び神戸より漁船の往復あり。

沖繩縣の物産 其重なる物は紺紵コンカサリ、泡盛アホウリ、塗物ヌリモノ、砂糖及び甘藷カンショなりとす。

◎練習問題

○琉球の地勢を問ふ

○四海道

元ノ琉球王尙氏ハ今ハ華族ニ列セラレ候ヲ授ケラレテ東京市ニ居住セリ  
泡盛トハ燒酎ノ如キ強キ酒ナリ

○那覇の状況を記せ

○首里城の概況を記せ

○沖縄縣の重なる物産を問ふ

### 第九章 北海道

#### ◎位置區劃地勢及び氣候

北海道は我國の最北部に位し、東南は太平洋に面し、西は日本海に北はオホツク海に臨む、本道は北海道本島と千島群嶋とより成り、之れを十二ヶ國に分つ即ち渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室及び千嶋なり。

本道には北海道廳を置きて、全道を管轄し、其の下に左の十八支廳を置きて、行政事務を分轄せしむ。

札幌 函館 松前 檜山 壽都 岩内 小樽 空知 上川 宗谷 増毛 網走

走 室蘭 浦河 釧路 河西 根室 紗那

山脉は本道を十字形に走る、其千嶋より來るものは、根室に入つて西に走り、石狩山脈と成り、其間に雄阿寒山、雌阿寒山、石狩山、十勝岳を起し、宗谷より來る山脈は、東南に走りて本嶋の南端なる襟裳岬に終り、其間宗谷岳、天塩岳、神威岳を起し、後志山脈は後志岳に起つて、東及び南に延び、南に在るは駒ヶ岳、逆樂部岳最も高く、東に在つては後志岳、樺前山等最も高し。河流は我國第一の大川たる石狩川、本道の中央に發して西に流れ、日本海に入る、南部には十勝釧路の二大川あり、西部に天塩川ありて、共に本道の平地に灌漑す。

本道は中央部に於て山脈互ひに集合するを以て、中央には平地なしと雖ども、海岸に近くに從つて平地多く、彼の石狩平原の如きは我國第一の廣野にして、而も地味大るに肥へ、沃野數十里に連る、其他本道の平地は一般に肥沃なり。本道の氣候は概して寒く、其東南太平洋に面する部は、稍や温暖なれども、西

北部及び中央の高地地方は寒氣別けて甚しく、冬季は全般に積雪地を埋むと云ふ。

本道は土地廣く山岳にも富めば、肥沃なる廣野にも富むを以て、農産物の收穫も多く、山岳の天産物にも富み、且つ牧畜の業にも適し、殊に四方の海中にては、漁利多く、世界の漁業場とも稱すべき程なれば、實に我國の富源とも云ふべきなり、然れども内地は住民少なく、開拓日尙は淺きを以て未だ其利を悉にする能はず。

本道の交通は四方の海岸各港に汽船の往復あり、即ち、函館港を基点として、西海岸に沿ふて進めば、福山、江刺、小樽、増毛の各港は定期船往復す、又た函館港を基点として東に進めば、室蘭、釧路、根室の各港に定期船往復す、又た北部海岸は根室を基点として、北に進めば網走、紋別、枝幸を経て、千嶋の泊、斜古丹、紗那の各港に定期船往復す。

北海道の鐵道 本道には西と東に鐵道あり、其東に在る炭礦鐵道は札幌より東

山岳ノ天  
産物トハ  
金銀銅鐵  
ノ類及ヒ  
石炭木炭  
石炭等ノ  
コトヲ云

西に岐れ、西するものは小樽を経て手宮に至る、東するものは、岩見澤にて數多の支線を出す、北するものは砂川に達して、其より官線となり、空知に至つて東に進み、太を經へ旭川に達して、又た南北の支線を岐つ、北は天鹽に入りて士別に至り、南は十勝に入つて鹿越に達す、炭礦鐵道は岩見澤に於て、更に幌内支線を東に出し、支線又た二つに岐れて、一は幌内一は幾春別線と成る、而して本線は南に進み、追分に至つて東北に夕張線を出し、其より本線は西南に走つて、苫小牧を過ぎて、室蘭に終る。

本道東部の鐵道は釧路港に起つて、北に走り標茶に至る。

北海道廳 は札幌に在り、札幌は石狩平野の西南部にして、人口三万五千を有し、農學校、病院、其他農工商に關する大會社あり、即ち札幌ビール會社を始め、製糖會社、麻製造所等、其大なるものにて、又第七師團の聯隊兵營あり、有名なる北海道林檎は此の附近より産す。

夕張炭山は本道の石炭産出地にて、石狩平野の東南隅にて、札幌の東方に在り

其附近に又石炭の産出地あり、即ち幌内、幾春別等なり。

小樽港は本道第二の開港場にして、札幌の西方小樽灣頭に在り、人口六万を算し、商業盛んにして常港より、石炭、木材、砂糖等を殊に多く輸出す、小樽港の西端に斗出せるは、神威岬にして神威岬の南方海岸に在る名邑は岩内、壽都とす、共に漁獵場にして、鯨、鮭、鱈等の漁獲頗る多し、硫黄の産出を以て有名な、奥尻島は後志の西南に在り。

旭川は石狩平野の東北隅に在りて、土地高く氣候寒し、第七師團司令部の所在地にして、鐵道の便あり、且下其附近の平野を盛んに拓殖しつゝあり。

増毛港は本道西部の良港にして、船舶の出入多く此より北方天塩港に至る迄の海上は、鯨、鮭、鱈の漁業場にして、其間の沿岸に留萌、苫前等の名邑あり、共に漁獵を以て其名高く、彼の有名なる天塩昆布は此の附近に産するなり。

天塩港の北方海上に在る島は、利尻島にして、其北に竝べるは禮文島なり、禮文島の東に斗出せるは、宗谷岬にして本島の北端なり、其西岸に在るは宗谷港

なり。

宗谷岬より東南知床崎に至る迄の間には、枝幸、紋別、網走の三良港あり、共に函館、室蘭等より汽船の往復あり。

根室港は知床岬の南方に東へ斗出せる納紗布半島の北岸に在る良港にして、千島に渡る汽船は本港より出づ、半島の南岸に在るは花咲港なり、

釧路港は本島南海岸にして、納紗布半島と日高の襟裳崎との中間に在り、釧路川其傍を流れて海に注ぐ、此地は開港場にして且つ標茶へは鐵道の便あるを以て、其北方の山中より出る硫黄、木材等は本港に集りて輸出するに依り、商業盛んにして土地賑へり、釧路の東方に在るは厚岸灣にして、西方に在る名邑は白糖なり、白糖の西に在るは十勝第一の名邑なる大津にして十勝川の河口より此の附近の海上は昆布の名産地なり、大津より西日高の沿岸はアイヌ人種の部落にして、昔は此邊一帶の地に住ひたるも、近時は本洲よりの移住民に多きを加へるより、北方の山地へ避け、次第に種族滅して今は二萬近くを數ふるまで



となれり。

日高の南部沿岸は屈折極めて少なく、殆んど一直線を爲す、其沿岸の東部に在るは浦河ウラカにして、其西北の内地に大牧場ありて良馬を産す、新冠ニイカツキと云ふ、浦河の西部海岸にあるは歴史に其名を知られし沙流サリウにして、即ち源義経の本洲より逸れて來りて住居したる地なり。

室蘭は膽振の西南端にして、繪鞆岬エゾマサの西岸に在る開港場なり、港内水深く波靜かにして、能く大船巨艦の碇泊に適す、故に我海軍省は本港を軍港とし、此に第五海軍鎮守府を設けらるゝ豫定なり、本港より輸出さるゝ重なる物は、麥、石炭、硫黄等とす、其北方に聳ゆるは、後志岳シロベテにして、東麓に在る大湖は、洞爺湖トウヤウなり、又た本港の西北に在る名邑は、白老ハクロー、苫小牧トモコマキにして共に鐵道の便あり。

渡島半島は本道の西南に南に斗出せる半島にして、其南端は即ち函館灣なり、霧の東は惠山岬にして、西は白神崎なり、故に函館灣は白神崎と惠山岬とに依

沙流ニハ  
社人ノリテ  
土人ノリテ  
フナシモノ  
下云

白神崎ニ  
於テ日  
露ノ  
初メ露  
ハ暴行  
致テセ

福山ハ昔  
時校前ト  
稱セシ  
ナリ

て構成せらる、函館は函館灣に臨む良港にして、南方遙かに本洲の青森と相對し、即ち本洲に渡る要津にして、且つ我國五港の一に數へられ、港内は水深くして波靜かに、内外の船舶常に輻湊して商業非常に盛んに、土地の繁昌本道第一なり、人口八萬を有し、函館控訴院の所在地なり、本道の海産物、石炭、硫黄、木材等は皆本港より海外へ輸出さる、輸入品の重なるものは米穀茶石油等最も多し。

有名なる五稜廓ゴリョウカクは函館の北方に在りて、氷の製造場なり、福山は函館の西南に在る良港にして、市街亦た賑ふ、江刺は福山の北方西岸に在る名邑にて、鯨クジラの漁利を以て名あり、函館の北方に聳ゆる高山は、駒ヶ岳にして其北に在る良港は森モリなり、森港の對岸は即ち室蘭港なり。

千島列島は根室の東北に列なれる五十餘島の群島にして、國後島クニシロに始りて、占守島シムシロに終る、本島は総論に於て記せる如く、火山脈の其頂イタダキを海上に現はしたるものゆゑ、土質は燒土にして肥沃の平地なく、爲めに農産物の見るべきものなき

○北海道



山脈の中央に高く聳ゆるは新高山にして、高さ一万二千八百餘尺を算し、我國第一の高山なり。

河流は中央の山脈分水線と成りて、東西に流るゝもの多きも、常に水少なくして舟運の便に乏しく、僅かに沿岸地方を灌溉するのみ、唯九北部の淡水河のみは、水深く巾廣く能く汽船を通ず。

臺灣島の海岸は屈折極めて少なく、北部に基隆港と南部に南灣あるの外著しき港灣なし。

氣候は我國に於て最も熱く、夏期は百度以上に達することあれども、嶋地なるを以て涼風常に來りて暑氣を拂ひ、決して堪へ難きにあらず、雨は春夏の候に少なふして、冬期に多く、宛然本土の梅雨期の如し、風は夏期に於て西南風多く、冬期に於て東北風多し。

臺灣島の鐵道は北部と中央部に通せり、其北部に在るものは基隆港を起点として、西南臺北に進み、此處にて淡水港に至る支線を東に出し、本線は南に走

臺灣島の長二百六十哩、南北の長二百七十哩、東西の長七十哩、又四角の面積は四百六十哩、淡水河は北へ往復する

つて新竹に至る、其中央部に在るものは清裡より起つて臺南を過ぎ、舊城に至つて止む、其他は車馬の力を借りて道路に依るの外なし。

本島は南北の長さ二百十哩東西の最廣七十哩ありて人口全島を通じて三百万人あり、而して山脈の東部は一般に未開地にして、所謂る生蕃人の部落百餘各山地に散在す、

臺灣島の政治區劃は一總督府を置きて、其下に左の二十支廳を置きて、全嶋の政治を管轄す。

- 臺北。深坑。桃仔園。基隆。新竹。臺中。南投。彰化。苗栗。臺南。蕃薯寮。
- 鳳山。阿猴。嘉義。塩水港。恒春。澎湖。臺東。宜蘭。

臺北は四面皆山にして淡水河其西を流れ、人口六万餘を算して、本嶋第一大都會なり、臺灣總督府混成第一旅團司令部の所在地にして、市街は繞らすに城壁を以てし、此に東西南北の門を設けて内外の通路とす、市街は城内に在りて街衢正しく、大厦高樓軒を竝べて、商業盛んに土地大に賑へり。

○臺灣嶋

城内にも亦た市街あり、其西門外に在るものは、艦舩にして北門外に在るものは大稻埕なり。

基隆 は本嶋の北端に在る良港にして、船舶の出入常に絶へず、本洲より來る船は第一に本港に入る。

淡水港 は臺北の西に在る開港場にして、淡水河の河口なり、臺北に亞ぎて繁華なる地にして、船舶の出入常に絶へず、貨物の集散基隆より其額多しと云ふ。

宜蘭 は基隆の東方に在りて、此地蕃地に近きを以て、未だ著しき發達を認めず、人口五千を算すと雖も、土人多くして土地未だ開けず。

新竹 は台北の南方二十里の處に在る小都會にして、人口五千を算し、停車場ありて市街稍や賑ふ。

台中 は本嶋の中央に位し、混成第二旅團司令部の所在地にして、鹿港は其西に在る良港なり、鹿港の東に在るは彰化にして、大肚溪其北を流る、其地方は

沃野十數里に連りて農業に最も適するを以て、米穀の産額殊に多く土地従つて

賑へり。

嘉義 は台中の南方平野の中央に在る都會にして、人口一万五千を算し、南より北に連なる十數里の平野は土地大るに肥へ、果實及び日用の食料物を夥しく産す、嘉義の東方に聳ゆるは新高山にして、其中間に在る樟腦の市場は即ち雲林なり

台南 は本嶋の南部に在る大都會にして、本嶋第二の繁華なる所とす、人口五万を算し、混成第三旅團司令部の所在地にして、市街は繞らすに石壁を以てし、其れに八個の門を開きて、内外の交通を取る、台灣の西方一里の海岸に在るは安平港にて開港場なり。

鳳山 は台南の南十四里の處に在る小都會にして、砂糖の産地なり、其西方の海岸に在るは打狗港にして、開港場なり、本嶋の南部鐵道は打狗に終る。

恒春 は本嶋南端の小都會にして、其附近は小丘多く平地少なく、住民は茶、棉花、及び雜穀の栽培を營ひ、其南に在る大灣は即ち南灣にして本嶋最南の良

港なり。

澎湖嶋は 大小数多の嶋嶼より成る群嶋にして、台湾本嶋と支那大陸の中間にあり、澎湖島、白沙島、漁翁島の三大島、互ひに相抱きて其中に灣を作る、媽宮港は此の灣内に在り、此の島は飲料水に乏しく、土質は赤赭にして、樹木の發生を見ず、澎湖島の東北部に羅列する重なる島は、紅頭嶼、火烧嶼、龜山島等にして多くは無人島なり。

台湾島の物産 本島は氣候炎熱にして、土地肥へたるを以て、諸種の産物極めて多し、其重なる物を挙げば、砂糖、樟腦、茶、石炭、米、藍、麻、紙、麥、煙草、藤蓐、甘蔗等にして、山中よりは種々の木材、硫黄、銅、石腦油、金、銀、寶石を産し、沿海よりは魚類及び鹽を産出す。

◎練習問題

○台湾島の地勢を問ふ

赤赭ハ焼  
土ト云フ

- 台中の概況を問ふ
- 台北の状況を問ふ
- 台湾島の良港を挙げよ
- 台湾島の最高山は何山なるか并に其高さを問ふ
- 台湾島の物産を列挙せよ

第十一章

◎樺太島

樺太島はオホツク海上に横はれる大島にして、元來我日本の版圖なりしを、明治八年露國我に迫つて千嶋と交換し、爾來露國領となりたる此に三十年、今や露國此土の半を我に入れて和を請ふ、此に於てか北緯五十度以南の地は、我領土となりたり、因て本地理の卷末に、樺太嶋の地理を附し、以て諸子に本島の概要を知得せしめんとす。

北緯五十  
度ノ處ハ  
樺太島ノ  
南北ノ殆  
んど中央  
点ナリ

○樺太島

樺太山脈  
ノ南ニ延  
ビオホツ  
ク海ニ没  
シタムモ  
ノ更ニ北  
ノ道本島  
ノ北端ニ  
在リテ北  
海道山脈  
トナル

### ◎位 置

樺太島は其形状南北に長く、東西に短く、南は宗谷海峡を隔て、北海道本島の宗谷港と相對し、北はオホツク海に面して遙かにカムチャツカ半島に對し、東はオホツク海を隔てて千島と相對す、西は日本海及び間宮海峡に面して、西比利亞大陸の黒龍沿海州と相臨めり。

### ◎地 勢

二條の蜿蜒たる山脈北より南に延びて地勢を東西に兩斷す、其山脈の東西の海岸は概ね平地なれども、其他は一体に高地にして、全島殆んど山岳を以て充たれ、内地に於て見るが如き平地は更になし、故に農産の業には適せず。

### ◎面積及び區劃

本嶋は南北の長さ六百七十哩、東西の廣さ三十哩乃至百五十哩にして、其全面積は二万四千五百六十方里あり、而して便宜の爲に本嶋を三州に分つ、即ち本嶋の北西方面を、アレキサンドロフスキー州と稱し、北東方面をツイモフスキー州と稱し、南部の一圓を、コルサコフスキー州と稱す、而して今や我領土に歸したるは、南部一圓のコルサコフスキー州と、アレキサンドロフスキー州の南部地方と、ツイモフスキー州の南部地方なりとす。

本嶋は南部地方に於て、水産の利最も多く、且つ土地も開け、随つて完全なる道路の敷設されたるものもあるも、中央部より以北は道路なく、土地開けず、且つ沿岸の漁利も南部に比すれば、大るに少なきを以て、北部地方は殆んど無人の状態に在りと云ふ。

### ◎人種と人口

本嶋に現今居住する人種は、露西亞、アイノ、ギリヤーク、オルチヨン、ツレ

○樺太嶋

樺太嶋ハ  
全島山岳  
ナリ以テ  
サシ且ツ  
到ルナラ  
森林ハ大  
キナルナ  
ザルハテ  
平地ナク  
因テ米穀  
能ハズ故  
ニ住民ハ  
農業ヲ管  
ムモノ更  
ニナシ

面積ノ二  
万四千五  
百六十方  
里アルニ  
比シテ人  
口ガ三万  
四千餘ト  
ハ本島ノ  
未開ナル  
ヲベキナ  
ルベキナ  
是レハ  
全島ニ平  
地ノ乏シ  
キニ依ル

ト雖テ同  
亦以テ同  
鶴ノ足ナ  
ガシラズ  
知ルベシ

グス、ヤグードの六種にして、其中露西亞人は約三萬、之に亞々はギリヤーク人にして約二千、次はアイン人にして約一千五百、其他は千人に満たず、ヤグード人の如きに至つては僅かに十二人に過ず、而して總人口は三万四千餘人なりと云ふ。

### ◎ 山 脈

並行山脈  
トテ五ニ  
ガ五ニ

樺太島の山脈は、二箇の並行山脈をなし、北より南に奔りて本嶋を縦斷す、其の中の最も高さものは、五千尺を算し、低きは二千尺を算す、其北方に在るを北樺太山脈と稱し、南方に在るものを南樺太山脈と呼び、相並んで東方ツイモフスキー州の中央を縦斷せるものを、東樺太山脈と稱す、南樺太山脈中の最も高さものは、ノトロ半島に<sup>モロノ</sup>白圭山あり、其北にスパン山登へ、其又北に在るはコタンドン山にして、セリナイ鑛山は其北方に峙つ。

東樺太山脈の南方に峙つはチアラ山最も高く、北樺太山脈の北方に峙つ高山は

ノト半島  
ノト東半島  
ノト西半島  
ノト南半島

エスペン山なり。

樺太島は全島殆んど山脈を以て覆はれ、到る處山岳ならざるはなし、故に樺太島には著しき平野の見るべきものなきも、アレキサンドロフスキー州の北部海岸には平地あり、又たツイモフスキー州の北部海岸にも稍や大なる平地あり、尙ほコルサコフスキー州の南部コルサコフ府の北方にも平地あり、其他は皆な山岳相重りて、其の間は樺太の名物とも稱すべき密林にして、密林の間に無數の河流東西に流れ、一たび山間に入れば、晝尚は暗く日光を見る能はざる程なりと云へり。

我々が内地  
ノ如キ平地  
ノ如キ平地  
ノ如キ平地

### ◎ 河 流

本嶋の河流は、其方向一定せず、山脈の間を流るゝを以て、或は南北に流るゝものもあれば、又た東西に流るゝものもあり、而して本嶋中の最大川は、北樺太山脈の中央より發し、行々東西に支流を出して、一は北に流れてツイモフス

○ 樺太嶋

キ州の東海岸に至りて、オホーツク海に入るものにて、ツイミ河を稱す、一は同じく北樺太山脈の中央に發して南に流れ、ツイモフスキー州を経て、コロサコーフスキー州に入り、七郎灣に至つて、オホーツク海に入る。ボロナイ川是なり、此の他大小の河流は各州各所に在りて、その西に流るゝものは間宮海峡に入り、東するものはオホーツク海に入る。

本島は氣候極めて寒冷なるを以て、大小の河流數多ありと雖も、冬期は皆氷結して舟楫に便せず、夏期に至れば雨水氾濫して、道路を失ふに至る、故に灌溉の便甚だ悪しく、且つ平地少なきを以て其の流は凡て急なり。

### ◎湖沼

湖沼は各所に散在す、其大なるものはシレントコ半島の北部に在るトリナイチャ湖及び七郎灣頭に在るタライカ湖とす、其他チビサニ湖ワワイ湖等亦大なり此の二湖は共に東伏見灣頭に在り、ライチシカ湖亦大にしてコルサコフスキー

舟楫トハ  
スコトナ

各所ニ散  
在ストハ  
方方ニ飛  
ルコトナ

州の西海岸北部に在り

### ◎港灣

東伏見灣  
ハ名ア  
ニハ名ナ

本嶋に於ける港灣の重なるものは、南方に東伏見灣、及び千歳灣あり、七郎灣はアルペーニヤ半島に依て構成せらる、西方海岸にはアレキサンドルスキー港あり、其の北方に在る大灣はウヤフト灣及びツイク灣並びにサハリン灣とす、サハリンは西岸北部の最大灣なり。

北端に北灣あり北灣の東に斗出せるはエリサベス岬にして西に斗出せるはアリ岬なり

東海岸に在るはナベリスキー灣最も大にしてツイモフスキー州の中部に在り、之に亞ぐものはブラット灣にして、アルペーニヤ半島の東岸に在り。

東伏見灣はコルサコーフスキー州の南端に在る大灣にして、東方に長く南方宗谷海峡に斗出せるは、シレントコ半嶋にして、西方に長く南方宗谷海峡に斗出せ



るは、ノトロ半島なり、故に東伏見灣は、シレントコ半島と、ノトロ半島とに依て抱かる。

重藏岬ハ  
舊名アニ  
ソ岬ナリ

シレントコ半島の南端を、重藏岬と稱し、ノトロ半島の南端を近藤岬と稱す。

近藤岬ハ  
舊名クナ  
ロン岬ナリ

東伏見灣は東西北の三方山脈を以て圍まれ、灣内水深く且つ別けて廣ければ、大艦巨船の碇泊出入に宜しく、北海道の宗谷港より、僅かに五十哩にして灣内の對馬岬に達するを以て、本島唯一の良灣とす。

對馬岬ハ  
舊名エン  
ソ岬ナリ

對馬岬は灣の中央より、南方灣内へ斗出せる岬にして、對馬岬の西方に一灣あり、千歳灣是なり、灣内には軍艦船舶常に碇泊す。

七郎灣ハ  
舊名ヘー  
シエン  
ス岬ナリ

七郎灣はコルサコフスキ州の東北隅に在る大灣にして、灣の東部は即ちテルベニヤ半島なり、灣内亦水深くして巨艦大船の出入に便なれども、其の風波を避くる点に至りては、東伏見灣に及ばず。

東伏見灣  
ハ樺太全  
島中第一  
ノ良港ナ  
リ

本島南部の大川たるボロナイ川は、北樺太山脈の中央より發して七郎灣に注ぐ。

アレキサンドルスキ一港は、本島西海岸の中央に在る良港にして、露領沿海州へ渡る要津なれば、巨艦大船の出入は固より、本島第一の繁華なる港なりとす。北灣はアレキサンドルスキ州の最北端に在る大灣なれども、冬期は結氷甚だしきを以て、船舶の出入に便ならず、従つて灣内常に寂寞を極む。

西部海岸に在るフラヤフト灣及びツイク灣并びにサハリン灣等は、船舶の出入常に少なきを以て、灣内従つて淋し、又た東部海岸に在る、ナベリスキー灣、及びプラット灣等は、只た時に船舶の風雨を避くる爲めに、寄港することあるのみにて、其名著しからず。

### ◎ 島 嶼

樺太本島に附屬せる島嶼の見るべきものは、唯だ二つあるのみ、一は七郎灣口の東部に在る海豹嶋にして、一はノトロ半島の西方海上に在る、海馬島なり、此の他に著しき島嶼は更に無し海豹島の東方海中に大岩石あり海豹岩と云ふ。

○ 樺太嶋

海豹嶋ハ  
舊名ロツ  
ヘン嶋ナ  
リ  
海馬嶋ハ  
舊名トド  
モン嶋ナ  
リ

海約岩ハ  
苞名シブ  
チー岩ナ

◎ 都 邑

二百八十二

樺太本島には三つの首府あり、是れ本嶋を三大州に分れたるを以てなり、曰くコルサコフ曰くアレキサンドロフ曰くルイコフスコエ是なり、コルサコフ府は、本島の南部に位るせる、殆んど四箇の半嶋より成立せるかの如き觀ある、即ちコルサコフスキー州の首府にして、東伏見灣内の千歳灣の東岸に在りて、コルサコフの南端は對馬岬なり。

コルサコフは戸數三千、人口一万を算する、南樺太の大都會にして、市街は相當に賑ひ、商業も亦た可なり開けられたるも、我軍の攻撃に會ひ、敵は全市に火を放ちて逃走したるを以て、今は舊形を止めずと雖ども、一度我が領土に歸するや、着着仁政を施き、經營されつゝあるを以て、以前に倍する殷盛なる市街と成るや、日を期して待つべきなり。

コルサコフを起点として、道路は山間に沿ふて正北に走り、オイナチ港に至つ

片岡岬ハ  
テルペー  
ニヤ半島  
ノ南端チ  
云フ

て、海岸に沿ひ、ペレゴウオエ村を経て、マヌエ村に至り、セリユトラ及びナヨロ等の各村を過ぎて、テルペーエスコエ村に支道を出す。

テルペーエスコエ村は七郎灣の西北隅に在る小都會にして、ポロナイ河の河口に在り、斜めに東方の片岡岬と相對す。

本道はナヨロ村より海岸を離れて北に走り、北樺太大山脈の中間を傳ふて、オノトル村に至る。

オノトル村は、北緯五十度の處に在る名邑にして、實に樺太の中央に位す、故にオノトル村はツイモフスキー州の北部に在りて、其東方を流るゝはポロナイ川なり。

其より本道は北に走りて、ルイコフスコエに達す。

又たコルサコフスキー州の西海岸に在る名邑は、マウカ南方に在り、其北に在るはクシユナイ及びエストルとす、エストルは、コルサコフスキー州の西海岸の北部に在る名邑にして、即ちエステル川の河口なり。

○ 樺太 嶋

二百八十三

ルイコフスコエ府は、ツイモフスキー州の首府にて、州の中部の西方に位し、北樺太大山脈の東麓に在り、ツイミ川市街の東方を流る。

市街は方一里半の平原中に在りて、四方は山岳を以て圍まる、戸數六百、人口三千を有す、官舎、郵便電信局、警察署、氣象臺、陸軍病院、郡立病院、監獄等ありて、市街は相當に賑へり。

本道は南オノトルより來り、此に至つて二つに岐れ、その北せるものはツイミ川の畔なるアドツイミ村に至つて終り、其より以北は道路なく山脈相重りて、住民更になし、ルイコフスコエより西に出たる本道は、アルウタン村を経て、西海岸のアルコフに達し、其れより南へ海岸に沿ふて戻れば、即ち有名なるアレキサンドロフスキー港なり。

アレキサンドロフスキー港は、アレキサンドロフスキー州の西海岸にある首府にして、前は間宮海峡に臨み、同海峡を隔てて、遙かに西比利亞大陸の沿海州の、カストリ灣と相對す、此間僅かに六十裡に過ぎず。

樺太全島通  
大國ニ此  
ズル海底  
電信ハ此  
ノアノレ  
サノドレ  
フスキ  
府ニシ  
アノ宮  
峡ノ海  
カストリ  
灣ニ至ル

アレキサンドロフスキー府は實に樺太全島の首府にして、アレキサンドロフスキー港に在り、戸數二千餘人口七千餘を算し、殊に港内水深く、巨艦大船の出入碇泊に便なるのみならず、樺太より大陸に渡るの要津なれば、市街大るに賑ひ、貨物の集散従つて多く、商業も亦た振ふ、アレキサンドロフスキーよりルイコフに至るには、十二里なりと云ふ、本府には海底電信局あり。

アレキサンドロフスキー府の北方三里の處に在るは、アルコワ村にして、アルコワは此の附近の名邑なれども、戸數は五十餘戸、人口三百を有するのみにて、村民は後の山脈の麓なる高地に於て、牧畜を業とし、盛んに牛馬雞豚を飼ひ、又た畑には麥、馬鈴薯を作りて、食用に供りと云ふ。

アルコワの北方八里に在るは、ユガーチ村にして、其れより本道は海岸に沿ふて、ラーフ及びボゴビ村に至つて止む、其れより北は道路なく、山を越へ川を渡つて、サハリン灣に沿ひ、エリサベス半島に至るのみ。

又たアレキサンドロフスキー府より、南に通する道路あり、即ちドツエを経て

海岸を離れ、ニコライフスクを経て、又た海岸に至り、ウスチアグチオに達し其れより又た海岸を離れて南に走り、山脈を越へてツイモフスキー州のオノトル村に至つて止む。

又たアレキサンドロフスキー州と、コルサコーフスキー州の境に有名なる大鐵山あり、即ちトリナイ鐵山にして、セリナイ村は其の麓の海岸にあり。

アレキサンドロフスキー州の最北端は、即ちエリサベス半島にして、其北端はエリサベス岬と、マレー岬とに依て、北灣を形成し、港頭にコイブイグルオと稱する小村落あり、其處よりオホーツク海を隔て、カムチャツカ半島の南端と遙かに相對す。

### ◎ 氣 候

本嶋は日本海の寒流とオホツク海の寒流を以て、全島の周圍を包まれ、且つ西比利亞大陸の寒風を受けること多きが上に、全島殆んど山岳を以て充さるるを以

ドクエ村  
ハアレキ  
サンドロ  
フスキー  
府ノ南方  
ニアル名  
邑ナリ  
ニコライ  
フスク村  
モ亦タ一  
部ヲ爲  
セル露軍  
シテ兵艦  
艦ナリ

毎年五月  
本嶋ノ山  
中ヨリ諸  
川水ヲ出  
激烈ナル  
出流ナリ  
シテ入海  
ニシテ勢  
一ニ依リ  
氷ニ解ス

樺太ノ森  
林ハ密ニ  
木大シク  
重シク枝  
ナク葉空  
茂クテ故  
ニテ日光  
見ル能ハ

て、氣候極めて寒く、加ふるに土地非常に濕氣を帶るに依り、雲霧常に昇りて、爲めに日光を見る能はざること多く而のみならず降雪極めて多くして、東部海岸は西部海岸に比して殊に甚し、又た寒氣の度も南樺太より北樺太の方遙かに強し、氣温は本島中央の西海岸なるアレキサンドロフスキーに於て、七月中平均華氏の六十三度にして、一月中の如きは華氏零下一度半なりと云ふ、因て間宮海峡は毎年十一月に至れば結氷して、船舶を通せず、翌年五月に至つて、始めて解氷すと云ふ、故に結氷中は間宮海峡上を人馬自由に往來して、アレキサノドロフスキー港と、對岸の沿海州カストリ灣との交通を營むと云ふ。

### ◎ 物 産

本嶋は陸には森林の驚くべきもの到處に充滿して名木珍材を出し、又た山岳よりは金、銀、銅、鐵、砂金、石膏、瑪瑙、硫黃、石炭等を出し、海産物に至つては、世界第一の稱あり、今左に其詳細を記さむ

○ 樺太 嶋



又ハ本然ノ地質ハ  
作ルモ本然ノ地質ハ  
ノ地質ハ本然ノ地質ハ  
五ノ地質ハ本然ノ地質ハ  
ザルニテ本然ノ地質ハ  
ソノ地質ハ本然ノ地質ハ  
ノ地質ハ本然ノ地質ハ  
無クテ本然ノ地質ハ  
イテ本然ノ地質ハ

等の採掘を開き、一方漁業をして益々盛大ならしめば、其の利其れ幾何をや、  
實に樺太島は世界の大富源と云ふも、敢て過言にあらざるなり、

### ◎各地への里程

- 南部樺太の首府たるコルサコフ港より各地へ至る海上の里程を示せば左の如し
- 北海道宗谷港へ 五十哩
- 小樽港へ 百六十哩
- 函館港へ 二百四十哩
- 浦盛港へ 五百五十哩
- 樺太島西海岸のドウエ港へ 二百六十哩
- アレキサンドロフスキー港へ 二百八十哩
- アレキサンドロフスキー港より其對岸なる沿海州のアレキサンドロフスキー  
まで 六十哩

## 附 録

### ◎樺太西對岸沿海州の良港灣

樺太島の西部海岸間宮海峡の對岸は、即ち露領黒龍沿海州なり、今沿海州東岸  
の重なる港灣の状況を示さむに。

樺太島の、アレキサンドロフスキー港の北西六十哩の對岸に在るは、即ちカス  
トリ灣なり。

カストリ灣は、黒龍沿海州の主要なる港灣にして、黒龍江の流を遡らんとする  
者は、先づ此のカストリ灣に入り、其れよりギチ湖を経て黒龍江に入る。

ギチ湖はカストリ灣口より西方一哩の處に在る大湖にして、黒龍江の水此に流  
れ入れるものなり。

カストリ灣の南端に、東方へ斗出せる一角あり、クレスタイカン岬と云ふ、  
岬には燈臺あり其高さ二十八尺ありと云ふ、

灣頭に露國殖民地あり、樺太のアレキサンドロフスキーと云ふ、未だ市街の形状

カストリ灣の北東部  
阿北明治十年  
三月二十八日  
七月二十日  
四日ニニニ  
磁石ニニニ  
ナレタニニニ  
ナリタニニニ

主要トハ  
大切ナト  
云フコト

カストリ灣  
州中ノ一  
二州ノ一  
瓦州ノ一  
ア府ノ一  
首府ノ一  
ネフトル

アレキサン  
ドロフ  
スキド  
交通  
シニア  
電信局

インベ  
ヤル  
治三  
日片  
通艦  
陸隊  
上陸  
タル所

をなさずと雖ども、平時露國の守備兵は此處に住し、且つ大陸と樺太との交通  
を取る要津なれば相當に賑へり、樺太との海底電信局は、北部の海岸に在り、  
又た灣内の中央に一島あり、サブルト島と稱す、本港の結氷期は毎年十一月に  
初りて、翌年の四月下旬に解氷すと云ふ。

カストリ灣を距る約百五十海里の南部海岸に一の大良灣あり、インペラトルス  
カヤ灣と云ふ、本灣は北緯四十九度二分に在りて、其東對岸は樺太のチルメチ  
ーウ灣、及びセリナイ地方にして、其間海上八十哩に過ず、浦鹽港は本灣の西  
南方六百海里に在り。

本灣は沿海州東岸有数の良港にして、灣内又た數個の小灣に分れ、小灣盡く大  
船巨艦の出入碇泊に宜しく、港濱は斷崖を爲して、樹木生じ、中に小山の如き  
處もあり。

主灣は本灣の東部に位する灣にして長さ五海里、幅半海里を有し、灣頭にはイ  
ンペラトルスカヤ川注流す、灣内は水深く灣口に於て十六尋を算し、灣頭を距る

ニコライ  
北邊  
ガ明  
月八  
上陸  
ル所

ニコライ  
北邊  
ガ明  
月八  
上陸  
ル所

一哩の處にては六尋に淺せり。

主灣と相對して西部に在る灣を、西灣又たジャバトイヤ灣と云ふ、此の西灣内  
に又た一小灣あり、之れをカラス灣と云ふ、灣頭に露國の殖民地あり、コンス  
タンチノフスクと稱し、素より市街の形狀を爲さずと雖ども、兵營あり且つ南  
部樺太と交通を營なめるを以て相應に賑へり、

チンペラトルスカヤ灣の南端を、ニコライ岬と云ふ、其附近に大小二個の嶋嶼  
あり、其大なるものを、ウストリサ嶋と呼び、其小なるものをツリー嶋と云ふ  
本灣は毎年十一月の初に於て結氷し、翌年四月に至つて解氷すと云ふ。

本灣地方及びカストリ灣地方は、人煙極めて稀なる地方なれば、素より名邑  
として其名の知られたるもの更になく、唯だ沿岸の處々に、少數の居住民を  
有する小部落の点を散在するのみ。

### 戦後 最新 日本地理 終

明治卅八年十月三十一日印刷  
明治卅八年十月四日發行

（定價金三十錢）

編纂者

地理學研究會

發行者

井上市松

印刷者

日出民助

井上一  
書堂梓

不許  
複製

戰後最新  
日本地理

發行所

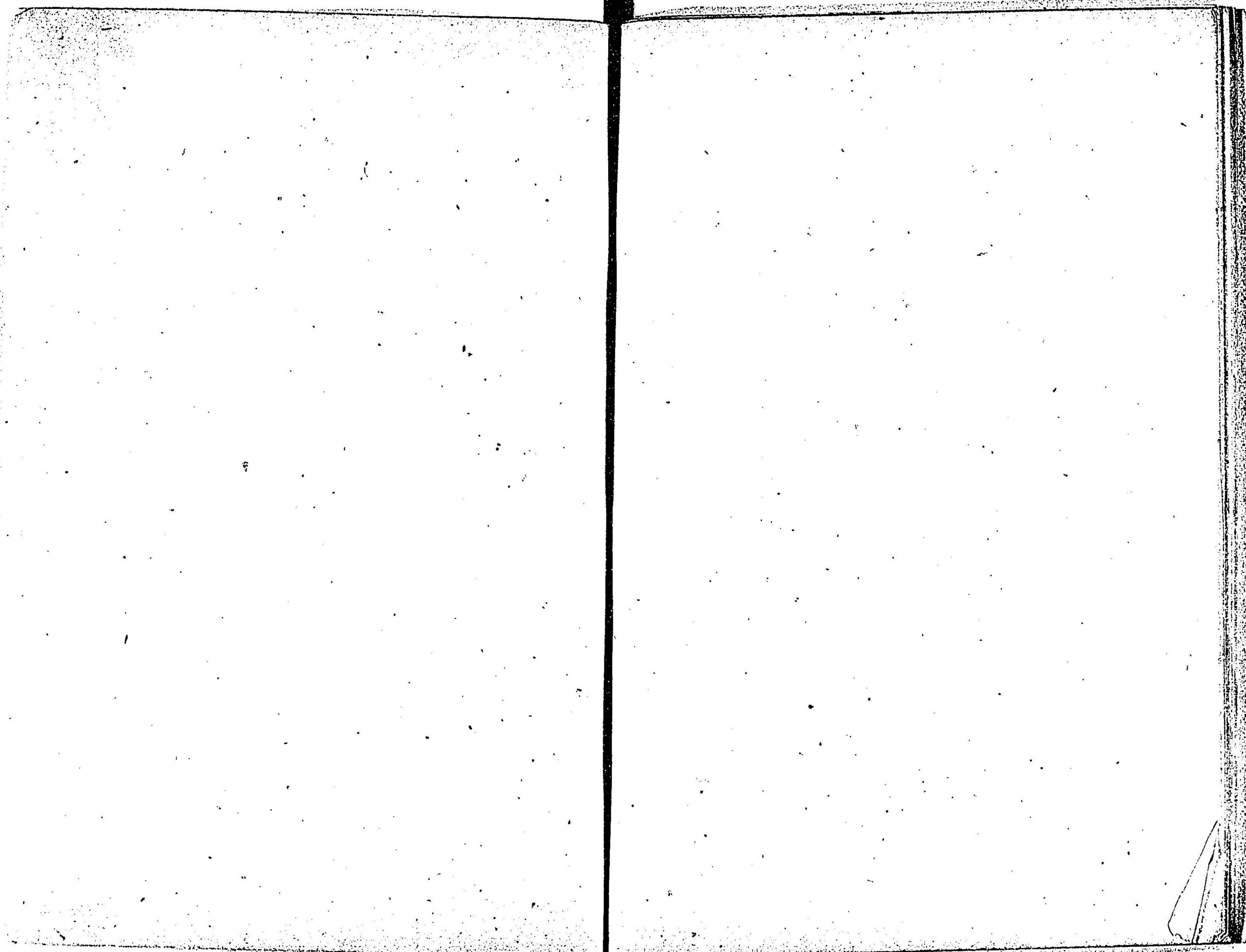
大阪市南區安堂寺町佐野屋橋南へ入

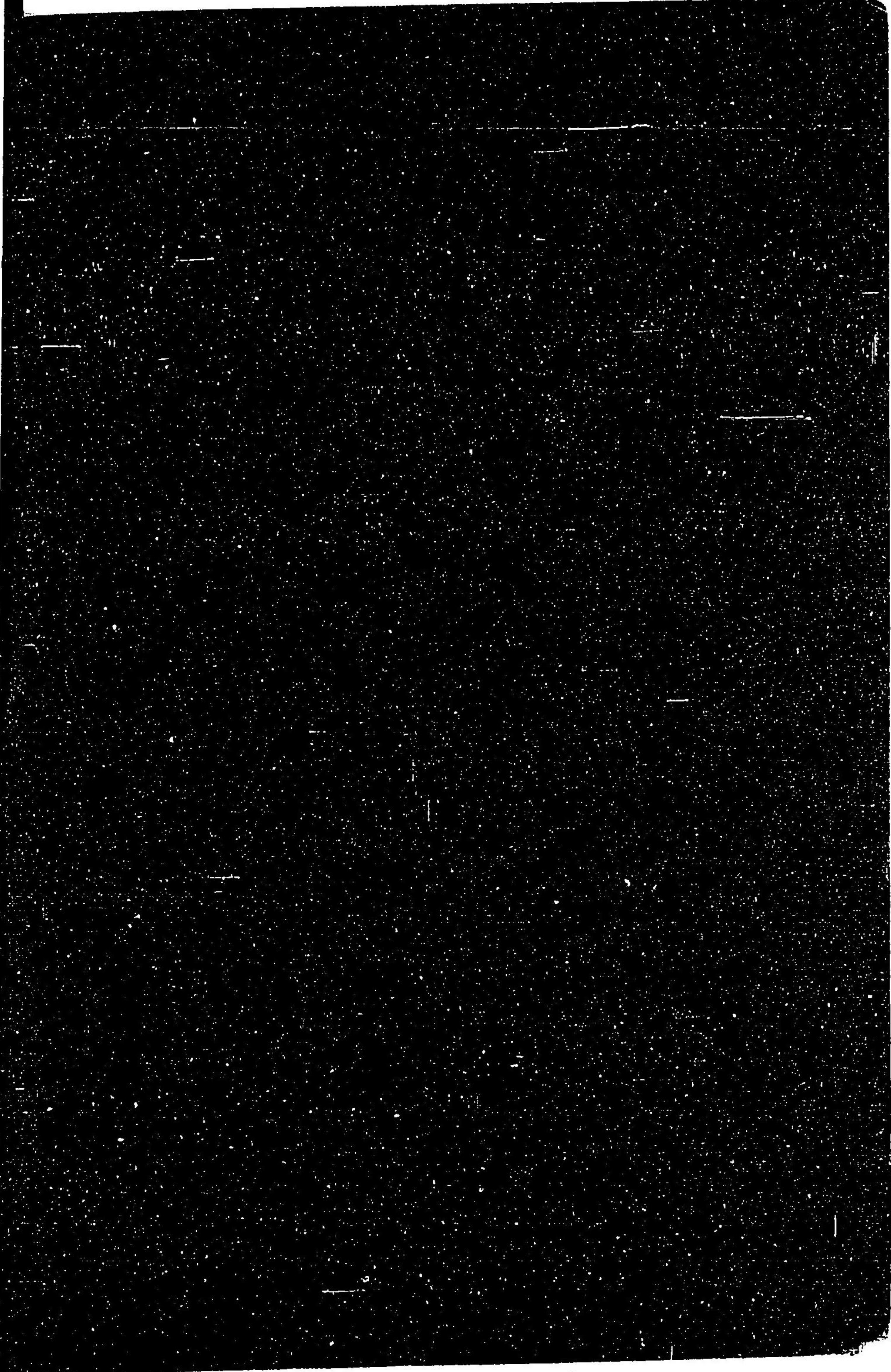
井上一書堂

大阪市南區安堂寺町四丁目百〇九番邸

大阪市西區北堀江上通一丁目百廿五番邸  
（井上一書堂印刷所）







禁複写

252  
78

022970-000-0

特20-446

日本地理 (戦後最新)

地理学研究会/編

M38

ADB-0907

